

平成 30 年度 大仙市立中学校生徒海外派遣事業

# オーストラリア研修 報告書

平成 31 年 1 月 4 日(金)～1 月 12 日(土)



## 日 程 表

### 大仙市立中学校生徒海外派遣事業

日次	月日	曜日	都 市 名	時間	交通機関	適 要	食 事
1	1月4日	(金)	大 曲 駅 発 東 京 駅 着 成 田 空 港 着 発	午前 11:41 15:04 15:33 16:27 20:10	こまち18号 NEX37号 JQ026便	大曲駅へ集合、出発式 秋田新幹線にて東京へ 到着後、乗り換えて成田空港へ移動 成田エクスプレスにて成田空港へ 到着後、チェックイン手続き 出国審査後、搭乗待合室へ 空路、ケアンズへ  【泊】機内	昼食：各自用意にて  夕食：機内食
2	1月5日	(土)	ケ ア ン ズ 着  マンガリーフォールズ 着	4:40  朝 午前	専用車	ケアンズ到着後、入国・通関検査  マンガリーフォールズへ移動、 到着後、休憩、朝食  オリエンテーション後、ホストファミリーと対面 それぞれのホームステイ先へ  【泊】ホームステイ	朝食：マンガリーフォールズ  昼食：ホストファミリー  夕食：ホストファミリー
3	1月6日	(日)	マンガリーフォールズ	終日		終日ホストファミリーと過ごします  ホストファミリーと会話、生活、 ファームでの作業等を体験して下さい  【泊】ホームステイ	朝食：ホストファミリー 昼食：ホストファミリー 夕食：ホストファミリー
4	1月7日	(月)	マンガリーフォールズ	終日		終日ホストファミリーと過ごします  ホストファミリーと会話、生活、 ファームでの作業等を体験して下さい  【泊】ホームステイ	朝食：ホストファミリー 昼食：ホストファミリー 夕食：ホストファミリー
5	1月8日	(火)	マンガリーフォールズ 発	午前 昼 午後		ホストファミリーに送ってもらい集合 ホストファミリーとお別れ マンガリーフォールズで昼食 オーギーキッズたちと交流 ゲーム等で楽しめます。 オーギーキッズたちと一緒に夕食 夕食後、土ボタル観察一緒にブッシュダンス、 フェアウェルパーティー マンガリーフォールズ内で土ボタル観察  【泊】マンガリーフォールズ	朝食：ホストファミリー  昼食：マンガリーフォールズ  夕食：マンガリーフォールズ
6	1月9日	(水)	マンガリーフォールズ 発  ホ テ ル 着	朝 午前 昼頃  午後	専用車 列車	朝食後、キュランダに向けて出発 キュランダ溪谷鉄道に乗車 キュランダに到着後見学 レインフォレステーションへ  ケアンズ市内ホテルにチェックイン、市内散策 徒歩にて夕食へ  【泊】ケアンズ市内	朝食：マンガリーフォールズ  昼食：キュランダ  夕食：市内レストラン
7	1月10日	(木)	ケ ア ン ズ 滞在   グ リ ー ン 島   ケ ア ン ズ	朝  昼頃  夕刻	徒歩 船  徒歩	港へ移動 船に乗船してグリーン島へ エコ認定ガイドの案内で島内を案内、見学 グラスボート乗船、 もしくはシュノーケリング体験 ケアンズ戻り、市内散策、ショッピングへ 昼食は実践を兼ねて各自にて購入 現地で活躍する日本人へのインタビュー 終了後、レストランにて夕食  【泊】ケアンズ市内	朝食：ホテル  昼食：各自  夕食：市内レストラン
8	1月11日	(金)	ホ テ ル 発  ケ ア ン ズ 発 成 田 空 港 着 着	朝  12:15 18:45 20:30頃	専用車 JQ025 貸切バス	ホテルチェックアウト後、空港へ  空路、成田空港へ 到着後、入国・通関手続き 貸切バスにて途中休憩をはさみながら 陸路、大仙市へ  【泊】バス車内	朝食：ホテル  昼食：機内食  夕食：各自
9	1月12日	(土)	大 仙 市 着	7:00頃		到着後、解散式	

平成30年度大仙市立中学校生徒海外派遣事業参加生徒名簿

NO	学校名	学年	生徒氏名	性別	NO	学校名	学年	生徒氏名	性別
1	大曲	2	きむら しおり 木村 葉	女	11	平和	2	いたがき あかね 板垣 朱音	女
2	大曲	2	こまつ みお 小松 未旺	女	12	平和	2	すずき りこ 鈴木 理子	女
3	大曲	2	こんの くらうと 今野 蔵人	男	13	西仙北	2	きくち ゆうき 菊地 優希	男
4	大曲	2	たいら そら 平 空	女	14	西仙北	2	ささき ももこ 佐々木 桃子	女
5	大曲	2	たかはし かこ 高橋 華子	女	15	中仙	2	いとう いぶき 藺藤 一颯	男
6	大曲	2	ちば あおい 千葉 向葵	女	16	協和	2	くどう なつ 工藤 夏津	女
7	大曲	2	とがし かのん 富樫 花音	女	17	協和	2	むとう ゆう 武藤 優	男
8	大曲	2	ますみつ こう 益満 昂佑	男	18	仙北	2	さとう りょうが 佐藤 凌篤	男
9	大曲西	2	おおわだ ゆな 大和田 優菜	女	19	仙北	2	しんどう なる 進藤 那琉	男
10	大曲南	2	たかはし りん 高橋 凜	女	20	仙北	2	すずき ほのか 鈴木 帆乃華	女



## 事前説明会予定

10月11日(木) PM 6:00~7:30	場所: 大曲図書館3F視聴覚室
<ul style="list-style-type: none"><li>・派遣生等紹介</li><li>・教育指導課長より</li><li>・前年度参加者より</li><li>・諸連絡(教育指導課)</li><li>・渡航にあたっての説明(担当者)</li><li>・今後の学習会について</li></ul>	
12月13日(木) PM 6:00~7:15	場所: 大曲図書館3F視聴覚室
<ul style="list-style-type: none"><li>・ファームステイ及び日程についての最終確認等(担当者)</li></ul> <p>※保険料の持参</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・緊急連絡先等提出(教育指導課教育研究所)</li></ul>	

## 事前学習会予定

10月26日(金) 第1回学習会 PM 4:30~6:30	場所: 大曲図書館3F視聴覚室
<ul style="list-style-type: none"><li>・ALT、CIRによるオーストラリアの文化等紹介</li><li>・自主研究テーマの設定 その他</li></ul> <p>※提出 ホームステイアプリケーションフォーム、海外旅行保険申込書、パスポートのコピー(顔写真のページ)</p>	
11月19日(月) 第2回学習会 PM 4:30~6:30	場所: 大曲図書館3F視聴覚室
<ul style="list-style-type: none"><li>・自主研究テーマの提出(面接により、自主研究テーマを広げる・深める)</li><li>・英会話レッスン(自己紹介・機内・税関・ショッピング・ホテル・道をたずねる・乗り物)</li></ul>	
12月28日(金) 第3回学習会 結団式 AM 9:00~PM 4:00	場所: 大曲図書館3F視聴覚室
<ul style="list-style-type: none"><li>・ファームステイグループごとの打ち合わせ(日本文化紹介準備活動等)</li><li>・結団式</li><li>・自主研究のための事前リサーチ活動・アンケート等準備</li><li>・作成レポートについて(様式、枚数、締め切り等)</li><li>・報告会について</li></ul> <p>※昼食をはさむので、弁当、飲み物を持参してください。</p>	

## オーストラリア海外研修予定

1月4日(金)~1月12日(土)	場所: オーストラリア(ケアンズ)
------------------	-------------------

## 研修報告書作成と提出

海外研修終了後 学校へのデータ提出・・・1月21日(月)~23日(水)
学校から教育指導課教育研究所への提出・・・1月29日(火) 必着

## 報告会・解団式予定

2月13日(水) 報告会及び解団式 PM 3:00~4:45	場所: 仙北ふれあい文化センター
<ul style="list-style-type: none"><li>・グループ別 個人発表</li><li>・感想発表</li></ul>	

## 結団式

### 派遣生徒代表誓いの言葉

私は大仙市の中学生代表として研修に参加させていただけることを嬉しく思うとともに、責任をもってこの研修に臨みたいと考えます。

オーストラリアと日本では、様々な違いがあります。例えば、コミュニケーションのとり方や文化、気候などが挙げられます。私は特に、紫外線について興味をもちました。オーストラリアの紫外線は日本の約5倍も強いとされるため、皮膚ガンになる人が世界で一番多いとされています。そのため、オーストラリアでは日焼け対策が法律で定められているそうです。私は、ホストファミリーの方々が日頃どのような対策をしているのかを聞いてみたいです。そして、日本が地球温暖化の影響によって、いつオーストラリアと同じような状況になるのか分からないので、帰国したらどのような対策をとればよいか提案していきたいです。

私は海外に行くのが初めてで、不安とワクワクが入り混じった気持ちです。この研修を楽しむとともに、いろいろなことを学び、友達にも伝えたいと思います。

(大曲中学校 平 空)



私は「様々なことを吸収し、自分のものにする」ということを目標にし、向上心をもってこの研修に臨みたいと思っています。海外で過ごす九日間は、私にとってあらゆる面で日本との違いを見つけることができる貴重な機会です。体験や見聞で得たことを新たな知識や視点として積極的に自分自身に取り入れて自分の成長につなげていきたいと思っています。また、自分の英語がどれくらい通じるのか、現地の人とのコミュニケーションの中で試してみたいです。伝えたいことが伝わるまで言葉を選んだり、表情を工夫したりして、英語での会話を楽しみたいと思っています。

私は「地域の人々がより暮らしやすくなるためには？」という視点から大仙市とオーストラリアを比べ、考えてみたいと思っています。大仙市は、様々な施設やイベントがある、とても魅力的な街です。大仙市の魅力をたくさんの人に理解してもらい、「住みやすい」と感じてもらうにはどうすればよいか、そして人口減少を防ぎ、地域を元気にするためにはどんなことができるのか、オーストラリアの取組からヒントを見つけたいと思っています。

私たち 20 人は、大仙市の中学生の代表として、この海外研修でたくさんのことを学び、自分自身をレベルアップさせたいと思っています。そして、みんなで助け合いながら、より有意義な研修にすることを誓います。 (大曲中学校 高橋 華子)



平成30年度 海外派遣 自主研究テーマ 一覧

NO	学校名	学年	生徒氏名	自主研究テーマ
1	大曲	2	木村 栞	大仙市の観光を世界に広めるにはどうすべきか？
2	大曲	2	小松 未旺	大仙市に1年を通して観光客が集まるようにするには何が出来るか？
3	大曲	2	今野 蔵人	大曲に年間を通して観光客を呼び込むには？
4	大曲	2	平 空	オーストラリアの皮膚ガンの発症率を低くするにはどうすべきか？
5	大曲	2	高橋 華子	人口減少を防ぎ、地域を元気にするために、どんなことができるか？
6	大曲	2	千葉 向葵	大仙市の魅力を再発見－Please tell me which one interests you the most.－
7	大曲	2	富樫 花音	大仙市の新しい魅力を発見するにはどうすべきか？
8	大曲	2	益満 昂佑	オーストラリアではどのような環境問題が起きているのか？ また、その問題をどのようにして解決しているのか？
9	大曲西	2	大和田 優菜	大仙市のよさをアピールできる観光スポットをたくさんの人に知ってもらうには？
10	大曲南	2	高橋 凜	魅力再発見！住んでいたい・住んでみたいふるさと大仙市であるためにはどうしたらよいか？
11	平和	2	板垣 朱音	大仙市を世界にPRするためには？
12	平和	2	鈴木 理子	大仙市で暮らす人を増やすには？
13	西仙北	2	菊地 優希	観光客を増やすためにはどうすべきか？
14	西仙北	2	佐々木 桃子	大仙市の伝統行事と魅力(刈和野の大綱引き)を、日本・世界に広めるためにできることは何か？
15	中仙	2	藺藤 一颯	伝えたいことを確実に伝えるにはどうしたらよいだろうか？
16	協和	2	工藤 夏津	観光地を訪れる人を増やすにはどうしたらよいのか？
17	協和	2	武藤 優	大仙市から世界にアピールできるエコ・リサイクル活動とは？
18	仙北	2	佐藤 凌篤	大仙市を農業でPRするためには？
19	仙北	2	進藤 那琉	大仙市の農業を発展させるには？
20	仙北	2	鈴木 帆乃華	大仙市の自然を生かし、観光客を増やすにはどうすべきか？

# AUSTRALIA REPORT

No. 1 大曲中学校 木村 葉

## I はじめに

私がオーストラリア研修に応募した理由は二つあります。

一つ目は自分の英語力を試したいと思ったからです。私は小学4年生から英語を習っています。生の英語に触れ、自分の英語が海外でどれくらい通用するか確かめてみたいと思いました。

二つ目は自分の価値観を変えたかったからです。日本にしていると知ることのできない、いろいろな人の考え方やものの見方、違う文化などを知りたいと思いました。それを知ることによって今の自分の成長にもつながり、将来に役立つと思ったからです。

家族と離れる寂しさはありましたが、それ以上に大仙市の代表としてオーストラリアに行くことへの誇り、これから始まる研修への期待感の方が勝っていました。そして1月4日、いよいよ私の海外研修が始まりました。

The first time in Australia



## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

『大仙市の観光を世界に広めるにはどうすべきか?』

### 2 設定理由

大仙市の代表的なイベントと言えば「大曲の花火」だと思います。大仙市の人口は約8万人ですが、花火大会当日になると70~80万人もの観光客が訪れます。1日にして人口の約10倍近い観光客が訪れる花火大会というのは、全国的にも世界的にも有名であるという証だと思います。しかし、花火大会が終わってしまうと一気に人がいなくなり、以前よりも静かになってしまったように毎年思います。「大曲の花火」の時はたくさんの方が大仙市を訪れ、街は活気に満ちていますが、その他の時期は観光客が圧倒的に少ないように思います。このことから私は「どうしたら観光客が1年を通して大仙市を訪れてくれるようになるのか」と考えました。そして観光客を1年を通して大仙市に呼び込むには「大仙市の観光を世界に広める」ことが必要だと思い、この研究テーマにしました。

## III 研究テーマについて

### 1 予想

私はテーマに対する解決方法として、次の二つの予想を立てました。

- ・インターネットを使って観光情報を発信すること。

Australian Sightseeing Spots



## ・外国人向けの観光サービスをつくること。

世界でもインターネットは普及しているのに、効率よく世界の人に広めるためにはインターネットを使えばよいと思いました。そして2つに共通して言えるのが他国の言語に対応できるということです。母国語に対応できていると知れば外国人観光客の方も利用しやすいのではないかと思います。

## 2 検証方法

オーストラリアと日本の観光の特徴について違いを明らかにするために次の方法で調べました。

- (1) 家族やクラスメイト、オーストラリアの人にそれぞれオーストラリアの観光、日本の観光についてアンケートをとる。
- (2) 現地で活躍する日本人の方に観光についての質問をする。
- (3) オーストラリアの観光地に行き、大仙市の観光との違いを見つける。

## 3 調べた内容

- (1) 家族やクラスメイトに「外国人におすすめしたい大仙市の観光は何ですか？」と聞いたところ、ほとんどが「大曲の花火」という回答でした。反対にオーストラリアで「日本人におすすめしたいオーストラリアの観光は何ですか？」と聞いたところ、グレートバリアリーフやウルルなどの有名なものだけでなくあまり知られていない観光地も出てきました。
- (2) 日本とオーストラリアの魅力について聞いたところ、日本の魅力は歴史や伝統文化があることや、オーストラリアの魅力は自然のスケールが大きいこと、オーストラリアならではの動物が見られることなどについて多く出されました。
- (3) 大仙市の観光との違いは主に二つありました。一つ目はオーストラリアにはいろいろな言語のパンフレットがあるということです。英語や中国語、日本語やドイツ語などの言語に対応していました。二つ目は観光地の周りにホテルが多いということです。隣り合うようにして、たくさんのホテルが立ち並んでいました。



## 4 考察

調べたことから大仙市の観光を世界に広めるためには、すでに有名な大曲の花火だけでなく、大仙市の伝統行事も発信していったらよいのではないかと思います。オーストラリアでアンケートをとったところ、その国の特色を観光に生かしていることが分かりました。大仙市にも歴史と文化があり、それらを大仙市の観光に生かせるのではないかと考えました。「刈和野の大綱引き」や「川を渡る梵天」などの伝統行事が数多くありますので、それらを英語や中国語などの外国語で紹介するパンフレットがあるとよいと思います。また、大仙市にはホテルなどの宿泊施設が少ないのも課題と言えます。この課題を解決するためには、私たちを受け入れてくれたホストファミリーのような民宿を増やせばよいのではないかと思います。外国人の方が民宿に泊まることで、ホテルへの宿泊では体験することのできない日本人の生活を体験することができるという利点が挙げられます。私もそうだったのですが、他国の生活を体験できるという点で、とても魅力的なことだと思います。

この研究を通して、ふるさと大仙市の発展に貢献したいと思うようになりました。観光客が増えることによって、街にも活気が溢れると感じました。今の自分が大仙市のためにできることを考え、提案していきたいと思います。

## IV エピソード

### 1 ファームステイ

私はホストマザーのGwenさんとホストファザーのBruceさんのお宅へファームステイしました。初日はGwenさんと、ニュージーランドから旅行に来ていたBruceさんのお母さんと一緒に、ショッピングをしてから昼食を食べました。その後、敷地の中を案内してもらいました。敷地内に川や橋があったのがとても驚きました。また、ゲストハウスを貸してくださったことにも驚きました。二日目は朝から家の川で遊びました。日差しは暑かったのですが、川の水は冷たくてとても気持ちのよいものでした。そして観光、ショッピング、ピクニックをしました。大自然の中で食べる食事はとてもおいしく感じました。三日目には1時間半くらいの長いドライブをしました。その日はたくさんショッピングをして、いろいろな所へ行きました。午後からは近所のファームへ行き、牛や馬、鶏とふれあいました。真近で見た動物は予想よりも大きくて、撫でるのが少し怖かったです。ファームステイ最終日の食事はGwenさんとナンを作りました。教えてもらって作ったナンは、日本で食べていたものよりもおいしく感じました。帰るとき、ホストファミリーと別れるのがとても寂しかったです。最後にホストファミリーが「See you again」と言ってくれたのが嬉しく、心に残っています。ホストファミリーとたくさんの時間を過ごした三日間のファームステイは、とても充実したものになりました。



### 2 食文化の違い

オーストラリアでは水が貴重です。したがって、洗い物を少なくするために食事はワンプレートにまとめられていました。スーパーマーケットで売られている食料品のサイズがとても大きかったです。特に、オレンジジュースや牛乳は2リットルボトルで、日本の倍の量でした。夕食の後のデザートでは、カスタードクリームを紙パックから出していることにもとても驚きました。ホストマザーのGwenさんが私たちに「オーストラリアにはたくさんの国の人がいるからいろいろな食文化がある」と教えてくれました。このようなところが、日本にはないオーストラリアの食文化の魅力だと思いました。そして、ファームステイ二日目にホストファミリーに日本食を作りました。私たちは梅のおにぎりを作りました。ホストマザーはお寿司が好きでおにぎりの作り方も知っていました。おにぎりを食べたホストファミリーは「Yummy!」や日本語で「おいしい!」と言ってくれました。様々な食文化が存在するオーストラリアでは、日本食が受け入れられやすいのではないのかと思いました。

### 3 海外で活躍する日本人

私はオーストラリアで活躍する日本人の方へインタビューをしました。

Q オーストラリアに来て困ったことや大変だったことは何ですか？

A 日本語が通じないことや自分の意思をはっきり言わないと伝わらないことです。日本人は空気を読んで相手が思っていることを感じ取ろうとするけれど、海外では空気を読むという文化はないので、自分からはっきりとアピールしないと物事が進まないことが多いです。

Q オーストラリアの人のよいところはどこですか？

A 人との違いを差別しないことです。日本と違ってオーストラリアにはたくさんの国の人がいるので、人と違うことを特別だとは思いません。違いを楽しむことを大切にしています。今住んでいる場所が楽しくなければ簡単に引っ越してしまいます。それくらい正直でわかりやすいことも、よいところだと思います。

Q オーストラリアに住んで分かった日本の魅力は何ですか？

A 日本には長い歴史があることが魅力だと思います。地域によって独自の伝統文化があったり特別な食文化があったり、文化の多様性にとっても奥深さを感じます。また、四季によって桜や雪を見ることができたり、サービスが丁寧だったり、日本の魅力は言い尽くせません。

#### インタビューを通して

みなさん最初は言語の違いに困っていました。英語力は現地で生活していく中で身につけていったそうです。でも、一番大切なことはコミュニケーションを積極的に取ろうとする姿勢だと思いました。日本には気付くことのできない日本の魅力を、今回インタビューした4人の日本人の方々から教えていただきました。それと同時にオーストラリアの魅力も知ることができました。これからの自分の将来やこれからの大仙市の発展に生かしていきたいと思いました。

### V 海外研修を終えて

今回の研修ではたくさんのことを学びました。日本とは違う景色、文化、人、考え方に触れることで、私の中の価値観が大きく変わりました。飛行機から降りたときは蒸し暑く、オーストラリアに来たことを実感しました。滞在中、現地で見えるもの全てが新鮮であり、私は大きな刺激を受けました。一方で、現地の人のお話す英語はスピードが速く、聞き取るのが大変でした。最初は自分の思っていることをはっきり伝えることができませんでした。しかし、自分が分かる単語を並べ、相手に伝わったときはとても嬉しかったです。自分の英語力だけで思いを伝えられたことは、私の中で大きな自信となりました。さらに、この研修を楽しむことができたのは仲間が存在があったからだと思います。一緒に行った仲間たちのおかげで、ファームステイ、マンガリーフウォールズでのアクティビティ、ショッピングなどを楽しむことができました。素晴らしい仲間たちと出会い、貴重な経験ができて、私にとって大きな財産になりました。

最後になりますが、このような機会を与えてくださった教育委員会の皆様、研修をサポートしてくださった先生方、東北iツアーズの古村さん、本当にありがとうございました。そして何より、海外研修に参加させてくれた家族に感謝したいです。



MY BEST MEMORIES



# AUSTRALIA REPORT

No. 2 大曲中学校 小松 未旺

## I はじめに

私がこの研修に参加した理由は二つあります。それは「英語で積極的にコミュニケーションをとれるようになりたい」「オーストラリアと日本の違いについて様々な面から知りたい」ということです。普段の生活では、ネイティブスピーカーが話す英語に触れる機会が少ないので、オーストラリアを訪れて実際に英語で会話し生活することで、自分の英語力を向上させたいと思いました。また、オーストラリアと日本は、気候も文化も歴史も全く異なります。日本と大きく違う環境の中で生活することにより、今まで気付かなかった日本や秋田のよさが見つけれられるのではないかと思います。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

『大仙市に1年を通して観光客が集まるようにするためには何ができるか?』

### 2 設定理由

大仙市には花火という大きな観光資源があり、国内だけではなく国外からもたくさんの観光客が訪れます。しかし、花火行事が多くある夏に比べて、他の季節は観光客が少ないように感じます。大仙市には、花火だけではなく、まだまだ知られていない素晴らしい観光スポットがたくさんあります。そのような場所を世界の人々にもっと知ってもらい、大仙市が一年を通してにぎわう街になってほしいと思い、このテーマを設定しました。

## III 研究テーマについての調査と考察

### 1 調査方法

- ・現地の人へ、フリップ式選択アンケートを実施する。  
大仙市の観光スポットをフリップにまとめ、ホストファミリーやオーギーキッズなど30人に、どの観光スポットに興味があるのかアンケートを実施する。
- ・オーストラリアの観光スポットを巡り、力を入れている取組などについて調査する。

### 2 調査結果

大仙市や日本の観光スポット・魅力をフリップにまとめ、右の写真のような選択式のアンケートをオーストラリアで行いました。項目には『花火、スキー・スノーボード、着物、田植え、唐松神社、漬物、旧池田氏庭園、雪』の8つを設けました。

Q. Which are you interested in?  
(あなたが興味のあるものはどれですか?)



## A. 第1位：スキー・スノーボード《8票》

### 第2位：旧池田氏庭園（庭園）《6票》

### 第3位：花火・唐松神社（神社）・雪《各4票》

- ・雪が降らない地域の人々はスキーやスノーボードにとっても興味があることが分かりました。
- ・旧池田氏庭園や唐松神社は、日本独自の景色・景観が特徴的で、興味をもつ人が多かったです。
- ・やはり花火に興味をもつ人がいて、これからも広めていくべきだと感じました。
- ・日本の伝統的な文化である着物の認知度が低いこと、田植えや漬け物に興味をもつ人が少ないことが分かりました。着物は日本の伝統文化であり、世界にもっと広めていくべきだと感じました。

### \*ケアンズの観光スポット\*

ケアンズには、グレートバリアリーフ（世界自然遺産）やキュランダ鉄道、レインフォレストेशनなど、自然を生かした観光業が盛んだと感じました。また、サンゴ礁のあるグリーン島では、サンゴを守るために環境保全に力を入れていることが分かりました。

## 3 考察

- ・降雪のない地域の人々にとっては、雪は本当に珍しい。
- 降雪量が多いという自然環境を生かしたスキーやスノーボードなどの観光を進めていくことで、冬にも多くの観光客を集めることができると感じました。
- ・日本独自の景観を大事にしている庭園や神社に興味をもつ人が多い。
- 四季折々の景色を楽しむことができる旧池田氏庭園や唐松神社などについて、海外の人にも分かりやすく伝えることにより、年間を通して観光客を集めることができるのではないかと感じました。
- ・田植え（米）や漬け物に興味がある人が少ない。
- 秋田（大仙市）には『あきたこまち・花火米・いぶりがっこ』など、世界に誇れる食文化があります。伝統的な食べ物も世界の人々に紹介することで、年間を通して観光客が集まるきっかけにできると感じました。

## IV エピソード

### \*ファームステイ\*

私の滞在した Rolfe さん夫妻の家では、牛・ヤギ・ニワトリを飼育していました。ホストマザーは本当に動物が大好きな人で、「ヤギ小屋で昼寝をすることもある」と言っていました。料理が上手な人で、どのメニューもとてもおいしかったです。

<一日目>

ヤギ小屋に入ってヤギと触れあったり、ロードバイクやトラックの荷台に乗って敷地を案内してもらったりしました。Rolfe さんの家の敷地はとても広く、様々なものを見ることができました。

<二日目>

植樹活動をしました。Rolfe さん夫妻の家には毎年、ファームステイをするため、いろいろな所から学生がやってきます。私たちが大人になったとき、私たちや私たちの子供がこの家に戻ってくるきっかけや思い出になるといい、とお話してくれました。



My host family's house



トラックの荷台から！

<三日目>

観光やショッピングをしました。Curtain Fig Tree という、自然公園の中にある大きな木を見に行ったり、スーパーマーケットに行ったりしました。この日の夕食のラザニアは、私のお気に入りになりました！最後には日本の伝統文化である折り鶴などをプレゼントして、ホストファミリーを喜ばせることができました。



植樹活動の様子！



Curtain Fig Tree



ホストマザーが作ったラザニア

### \*マンガリーフオールズ\*

オージーキッズとの交流では、沼に入って遊んだり、ダンスをしたり、DAPUMPの「U.S.A.」や二人羽織を披露したりしました。「U.S.A.」は、オージーキッズを巻き込んで踊り、とても盛り上がりました。二人羽織にもオージーキッズがたくさん参加してくれ、とても喜んでくれました。夜には星空と土ボタルを見に行きました。日本にいと気が付かなかつたけれど、星空は本当にきれいで、流れ星も見ることができました。みんなが互いの肩につかまり、列車のようにして暗闇を進んで行くと、そこには土ボタルがきらきらと輝いていて本当にきれいでした。

### \*キュランダ鉄道・レインフォレストेशन\*

キュランダ鉄道からは、ケアンズの街並みが見渡せて、見所がたくさんありました。バロンフォールズ駅という、大きな滝があるところに停車して写真を撮った時には、日本人観光客がたくさんいたのが印象的でした。



バロン滝



キュランダ鉄道

レインフォレストेशनでは、水陸両用車（アーミーダック）に乗って森の中をめぐった他、オーストラリア特有の動物を見たり、アボリジニの文化体験をしたりしました。特に印象に残っているのは、動物園でワラビーにさわったことと、初めてコアラを生で見たことです。



Koala



Wallaby



Aborigine

### \*グリーン島\*

グリーン島ではシュノーケリングを体験しました。水がとてもきれいで澄んでいて、小魚などをたくさん見ることができました。日本では見られないような植物もたくさんあって、貴重な体験になりました。『サンゴ礁に触れてはいけない』という規則があり、環境保護への取組が見られました。



グリーン島のきれいな海！

## V オーストラリア在住日本人にインタビュー

オーストラリアで働く日本人から、貴重なお話を聞くことができました。一部を紹介します。

**Q:** オーストラリアにはどんな魅力がありますか。

**A:** 自然が生活のすぐ近くにあることと、人がおおらかでフレンドリーなことです。

**Q:** 日本のよさや魅力をどのようにして伝えていきますか。

**A:** 日本の文化を伝えるコミュニティやイベントなどの開催を積極的に行っています。海外で活躍する日本人は、海外で暮らしているからこそ、日本のよさや魅力を本当によく知っていました。相手が人であろうと植物であろうと、優しさや愛情をもって接していくことで、誰もが生活しやすい環境になっていくのだな、ということに気が付きました。

## VI 海外研修を終えて

研修に参加する前は自分の英語が通じるのか、不安と緊張でいっぱいでした。しかし、オーストラリアで出会った人たちは、みんな優しく笑顔で接してくれて、私も自然と笑顔になりました。研修を終えて、英語力の面だけではなく、いろいろな面で成長することができたと感じています。特に、多少分からない単語があっても、文が少し間違っているでも、伝えようとする気持ちがあれば相手に伝えられると気付いたことで、英語で積極的にコミュニケーションをとるようになりました。また、資源の大切さについても考えるようになりました。特に水については、改めて日本は恵まれていると思いました。今回の研修で学んだことを生かし、大仙市やオーストラリアの魅力をもっと PR するために、自分にできることを考えていきたいです。そして、これからもっと英語を学び、またオーストラリアに行ってみたいです。このようなチャンスを与え協力して下さった教育委員会の皆さん、先生方、そして家族に感謝します。本当にありがとうございました！

Thank you for the great time !

# オーストラリアレポート

No. 3 大曲中学校 今野 蔵人

## I はじめに

幼い頃、従姉の中学校の文化祭を見に行った時のことです。オーストラリアの環境について英語で発表している知人の姿を見ました。当時はまだ何のことか分かりませんでしたが、その知人が英語で話している姿はとてまかつこよく、憧れの存在になり、僕もいつか彼女のように英語でコミュニケーションをとれる人間になりたいと思うようになりました。あれは、このオーストラリア研修の報告発表であると、後になって分かりました。僕は、以前から海外の文化に興味があり、実際に現地に行って自分の目で確かめたいと思っていました。今回、幼い頃抱いた憧れに自分が一歩近づく、実際に体験することで自分のスキルアップできる機会にしたいと思い、この研修に応募しました。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

#### 『大曲に年間を通して観光客を呼び込むには？』

### 2 設定理由

僕たちが暮らす大仙市、その有名な行事といえば「大曲の花火」です。この行事は、毎年たくさんの観光客が訪れます。しかし、その次の日はどうでしょうか？僕は花火が上がらない日にも観光客を呼び込みたいと思い、このテーマを設定しました。

## III 研究テーマについての予想、検証方法、調べた内容、考察

### 1 予想

- (1) オーストラリア独自の観光の取組をしている。
- (2) 他にはない魅力的なパンフレット（広告）づくりを行っている。

### 2 検証方法

- (1) 様々な場所で、各々がどんな取組をしているのか調べる。
- (2) パンフレットをもらい、大仙市のパンフレットと比較する。

### 3 調べた内容、感じたこと

- (1) 大仙市
  - ・四季を通して、花火が上がる。

- ・一年間の花火行事を紹介するポスターを作ってPRしている。
- ・市職員や中学生が花火大会前後にクリーンアップ活動を実施している。
- ・ゴミの分別は市全体で行い、ゴミ回収をしている。
- ・「大曲の花火」以外で、全国に知られている特産物が少ないのではないか。
- ・公共の交通機関は、旧大曲市以外の地域ではあまりよくないのではないか。

## (2) オーストラリア

- ・自然を大切にされていて、ゴミが落ちていない。
- ・街をつくる場所を工夫し、昔からあるものと今必要なものとを共存させている。
- ・年間を通して祭りや文化を体験できる施設がある。
- ・ゴミの分別が日本ほど発達していない。
- ・公共の交通機関の便があまりよくないと感じた。

## 4 考察

現地で調べてみると、ケアンズでは、自分が思っていたほどパンフレット等に力を注いでいないような印象を受けました。その一方で、大仙市よりも土地の使い方が上手なのではないかと感じました。例えば、キュランダ鉄道やグリーン島など、すでにあるものを最大限に活用している点です。それらの観光資源に共通していることは、「人々を引きつける魅力があること」と「年間を通して体験できること」であり、南国であることが強みになっていると感じました。

一方、大仙市では四季の移ろいを楽しめる場所、大自然があります。交通手段を整えて市全体にアクセスしやすくすることで、より多くの観光客を招くことができるのではないかと思います。山や川などの自然、郷土芸能、祭り、スポーツなど、花火以外の大仙市のよさを見つけ、パンフレットやインターネットでもっとPRしていくことができればと思います。

## IV エピソード

### 1 独特な食文化の数々！！

僕が現地で最初に食べたのは伸びた麺でした。これは本当に伸び伸びで、日本で食べているパスタとの違いに、ためらってしまいました。また、「ワンプレートで食べる」「一つ一つのサイズが大きい」「ドレッシングを大量にかける」など、日本食とは大きく異なったものでした。そんな驚きの中で、僕が特に好きになった食べ物は、「豚の皮揚げたもの」です。とても固いのですが、噛むほどに味が染み出ておいしかったです。



## 2 ファームステイでの体験！！

僕は John さんと Dianna さんの家にステイしました。ステイ中は Tinaroo 湖という場所に、毎日ピクニックに行きました。そこでは雄大な自然を一望することができ、そこで見た木々の緑、湖や空の青の美しさは忘れられません。また、ステイ先には大きなプールがあって、毎日入りました。素晴らしい景色が望める、とても素敵なプールでした。

食事は毎日豪華で、とてもおいしくいただくことができました。また、食事中的会話も楽しみました。John さんに『Do you like music?』と聞くと、「Yes」と言って George Ezra という歌手の曲をかけてくれました。僕はそのCDを買ってくるほど、その曲が気に入りました。



Tinaroo 湖

## 3 「キュランダ鉄道の車窓から」

僕たちは滞在5日目にキュランダ鉄道に乗りました。とても歴史のあるもので、ケアンズ～キュランダの開通が1891年だそうです。そんな鉄道車両の内部は、昔の面影を残した木造で心が躍りました。発車して早速目に飛び込んできたのはケアンズの街並みです。たくさんのおしゃれな建物を見て、僕は「本当に外国に来たのだな」と改めて実感しました。街を抜けると大自然が広がっていました。日本では見たことのない花や木、時折広がる大パノラマは言葉では言い表せない程に素晴らしかったです。いつかまた、もう一度乗ってみたいと思いました。



「キュランダ鉄道の車窓から」



## 4 現地で活躍する日本人にインタビューしました！

- 日本語教師 中村さん Q.なぜ、オーストラリアで日本語教師を？  
A. 動物の勉強しに来たが、教員免許をもっていたので、日本語教師をしている。
- マッカーシー麻紀さん Q.なぜ、オーストラリアで寄付を募っている？  
A. 東日本大震災で被害を受けた子どもたちをケアンズに呼びたい。より多くの寄付が必要だった。
- バードガイド太田さん Q.なぜ自然に尽くせるのか？  
A. この世界に呼んでくれた自然に感謝している。そして、そんな自然が大好きであるから。
- レーシングライター水野さん Q.努力をするとは？  
A. 自分の好きなことを見つけること。  
それを継続していくと、いつか仕事になってくる。

マンガリーフォールズ 大屋泰斗さんから、人生とは・・・

- ① 一つ一つ丁寧にやる
- ② 全力で取り組む
- ③ 運も味方につける
- ④ 「私やります」精神
- ⑤ 自分が信じた道を貫け ということを教えていただきました。

僕は5人の方々のお話を聞いて考えたことがあります。それは『相手を想う』ということですね。相手が何を思うか、何を求めているのか、そういうことを常に考えて行動することが大切なのだと思います。そして、新しいことに挑戦するということです。挑戦をし続けるうちに自分なりの考えや利点が生まれる、それが僕に今必要なことだと感じました。

『相手を想い、形にする。』僕はこれからそのことを意識して努力していきます。

## V 海外研修を終えて

研修初日、僕は不安でいっぱいでした。もし、相手に自分の英語が通じなかつたら…と考えてしまいました。しかし、いざ本番となると、ホストファミリーをはじめ現地で出会った方はみんなオープンで明るく、僕の英語を理解してくれようと一生懸命に聞いてくださいました。おかげで当初の不安はすぐになくなり、たくさんのことを学び、そして楽しむことができました。

僕は『笑顔で接することの大切さ』と『相手との違いを受け入れること』ということを学びました。関わり方一つで世界ががらりと変わり、みんなが楽しくなれることが分かりました。僕は、オーストラリア以外の国へも渡り、たくさんのことを自分の目で見て確かめ、秋田・大仙の活性化に生かせることを探してみたいと思いました。

今回、こんな貴重な経験をさせてくださった教育委員会の皆様、引率してくださった先生方、そして僕の夢を後押ししてくださった学校の先生、家族に感謝の気持ちを伝えたいです。本当にありがとうございました。

I want to go again!  
Thank you Australia!!



Green Island から見た海



Nathan さんと僕



Millaa Millaa Falls



お気に入りのカンガルー



Curtain Fig Tree

# オーストラリアレポート

No. 4 大曲中学校 平 空



ケアンズ空港

## I はじめに

私は、海外研修に参加することで海外へ視野を広げ、日本にいたるだけでは見えない世界に触れて、今後の経験に生かしていきたいと考え、今回の研修への参加を希望しました。初めての「海外」ということもあり、不安とワクワクが入り混じった気持ちでした。オーストラリアの自然の豊かさをテレビで観たり、事前にいろいろのことを調べたりすることを通して、「実際に見てみたい」と強く思っていたので、出発日の1月4日が迫るにつれて期待が大きくなっていきました。

## II 研究テーマと設定理由

**テーマ：「オーストラリアの皮膚ガンの発症率を低くするにはどうするべきか」**

私は、研修に参加する前に、オーストラリアの「環境」について調べてみました。その時に、オーストラリアの紫外線が日本よりも約5倍も強いことが分かりました。そのために世界の中でも、皮膚ガンになるオーストラリアの割合が大きいとされています。今後、もし日本の紫外線が強くなっていったときにどのような対策をすればよいのか、またオーストラリアの日差しが日本よりも実際どれくらい強いのかについて興味をもったので、この研究テーマにしました。

## III 研究テーマについての予想、検証、まとめ、考察

### 1 予想

オーストラリアは、熱帯地域のために気温が高く紫外線が強く日差しが強いので、皮膚ガンになる人の割合も多いと推察されます。以前テレビ番組で見たのですが、日本人は（自分も含めて）インドア派が、それと対照的にオーストラリアではアウトドア派が多いことが関係しているのではないかと予想しました。

## 2 検証

### (1) インターネットで調べる

【大仙市】 市の取組の一つに「はじめよう！エコドライブ」という取組がありました。

この取組は、排気ガスが地球温暖化をはじめ、様々な環境破壊、健康被害を生み出すともされています。そのようなことを軽減するための取組です。

【オーストラリア】 1980年代初めのオーストラリア政府には、「サン・スマート（太陽と賢く付き合うこと）」という言葉があり、主に5つのアイテムで紫外線カットの対策を呼びかけていました。それは **S**lip **S**lop **S**lap **S**eeK **S**lide です。

- |                               |                    |
|-------------------------------|--------------------|
| • <b>S</b> lip on a shirt     | シャツを <u>着る</u>     |
| • <b>S</b> lop on sunscreen   | UV クリームを <u>塗る</u> |
| • <b>S</b> lap on a hat       | 帽子を <u>被る</u>      |
| • <b>S</b> eeK shade          | 日陰を <u>探す</u>      |
| • <b>S</b> lide on sunglasses | サングラスを <u>かける</u>  |

その取組の結果、近年オーストラリアの皮膚ガン患者数は減少しており、2011年にはニュージーランドの方が多くなりました。

### (2) インタビューで調査する

#### ●ファームステイ先でインタビューする

Q How do you protect yourself from the sun?

A Wear a hat and sunscreen.

Q What do you think about sun protection in Japan?

A It' s much the same protection(in Japan).

#### ●現地にいる日本人にインタビュー

Q オーストラリアで、日焼け対策はどうしていますか？

A サングラスと帽子、そして日焼け止めクリームを塗っている。



ケアンズの自然



サングラスで日焼け対策をしている人たち

### 3 まとめ

オーストラリアは日本に比べて地球温暖化の影響を受けて、日差しが強いことが分かりました。また、オーストラリアでは日本と違って日焼け対策のためのスローガンがあることが分かりました。オーストラリアは日本よりも日焼け対策の意識が非常に高いことがうかがえました。街を散歩している時にサングラスをしている人が多いことから、日本とは意識が違うのだと感じました。また、ステイ先でお世話になった Cahill 夫妻と行動を共にしていると、外に出るときは必ず帽子を被り、サングラスをしていました。日本では外に出るときサングラスをしている人をあまり見かけないので、新鮮に感じました。一方で、街中を歩いている人が、半そでに短いズボン姿と肌をさらしている人もいたので日焼け対策を完璧にしているわけではないとも感じました。

### 4 考察

オーストラリアの皮膚ガンの発症率を低くするためには、まず日焼け対策をしっかりと行うことが大事だと考えました。私が見た限りだとサングラスと帽子を着用している大人が多かったのですが、子どもは帽子を被らず、サングラスをしている子も少数でした。スローガンを掲げ日焼け対策をしようとする姿勢は見習うべきだと思いますが、もっと徹底した方がよいと考えました。また、近年オゾン層が薄くなってきていることも問題だと思います。この現象は地球温暖化が関係していると考えられます。私たちは、地球温暖化を少しでも食い止めるために、できることから始めなければいけないと考えます。まずは、ゴミの分別やリサイクルなど自分でできることに取り組みたいと思いました。

## Ⅳ エピソード

### 1 キュランダ鉄道とその風景



キュランダ鉄道

キュランダ鉄道のマーク

キュランダ鉄道から見た滝

キュランダ鉄道に初めて乗った時に、まず驚いたのは「赤いシートの座席」です。日本でそのようなものを見たことがなかったのでびっくりしました。そこからの景色は素晴らしく、滝が流れている様子や列車から見渡した様子はまさに「絶景」でした。

## 2 オージーキッズとの交流



マンガリーフォールズで実際にオージーキッズと交流して感じたことは、みんなフレンドリーで親しみやすい人柄だということです。私たちは、フェアウェルパーティーでダンスを踊ったり、二人羽織を披露したりしました。どの顔を見ても楽しそうな表情をしていて、私も楽しくなりました。この交流を大切な思い出にして、もっと英語を極めたいと思いました。

## 3 ファームステイでの驚きの牧場体験！！



ホストファザーの Warren さんの友人の牧場へ行きました。その牧場では牛と羊、やぎを飼っていて、大きな黒い犬もいました。Warren さんが友人を紹介した時、その人の首に蛇が巻き付いていてびっくりしました。後で飼っているペットだと教えてもらいましたが、まさか蛇を飼っているとは思わず、「大丈夫ですか？」と言ってしまいそうになるほど驚きました。面白い方と話せたことは貴重な体験になりました。

## 4 現地で活躍する日本人にインタビューしました！

Q オーストラリアと日本の違いは何だと思いますか？

A 野生動物が多く自然が残っているところ。また、オーストラリアの家は平屋が多いということ。

Q オーストラリアに住んでみてよかったことは？

A いろいろな国の人と話せたこと。また、改めて日本のよさを知ることができたこと。

## V 海外研修を終えて

ケアンズ空港に到着したとき、オーストラリアに着いたという感じがしませんでした。1日、2日と過ごしていくうちにだんだんと実感がわいてきました。そして「私は今、オーストラリアにいる」と強く感じた時にはもう日本に帰ってしまうという時でした。「楽しい時間は、あっという間に過ぎてしまうのだ」ということを実感しました。私は、この研修からたくさんを学びました。例えば、現地の人のフレンドリーな人柄や、積極的に話しかける姿勢、そして初めてのことに挑戦するチャレンジ精神などです。私は、日本に帰ったらいろいろなことにチャレンジする、と心に誓いました。そして日本に戻ってから、『絶対無理』『やる前から諦める』ということはいやにしよう」と、自分の中で意識が変化しました。私は、成長できる機会に思いきってチャレンジしてみてよかったと、心から思います。

今回学んだことを将来に生かし、家族や地域に恩返しをしていきたいと思っています。本当にありがとうございました。



Warrenさんと研修メンバー



ホストマザーAnneさんと研修メンバー

# Thank you Australia!!

# オーストラリアレポート

No. 5 大曲中学校 高橋 華子

## I はじめに

私がこの研修に参加したいと思った理由は二つあります。一つ目は普段の生活では英語で会話をするという機会はほとんどないため、All English の環境の中で英語を使って自分の英語力を向上させたいと思ったからです。二つ目は外国の雰囲気や文化を体感し、物事に対する視野を広げたいと思ったからです。異文化に触れ、外国で今話題になっている出来事を知ったり、日本のよさを再発見したりすることを通して、考えたことや得た知識や経験を自分の将来につなげていきたいと考えました。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

『人口減少を防ぎ、地域を元気にするためにどんなことができるか？』

### 2 設定理由

現在の大仙市の人口は約8万人。大仙市の広報誌「だいせん日和」を見ると毎月少しずつ減少しているのが現状です。少子高齢化や若い人たちが都市部へ流出しているのも原因の一つだと思います。では、人口減少を防ぎ、地域を活性化させるために大仙市ではどんな取組をしているのだろうか。また、市民が大仙市に魅力や生きがいを感じ、生活の質を向上させていくためにどんな取組をしているのだろうかなど、様々な疑問が浮かんできました。これからの大仙市をつくっていく私たちが、地域を元気にするために今、できることはどんなことか、市の取組に対してどんな気持ちで関わっていったらよいのかということ、オーストラリアの「地域活性化」に対する取組と比較しながら考えてみようと思いました。

## III 研究テーマについての予想、検証方法、調べた内容、考察

### 1 予想

- ・オーストラリアにも地域を活性化し、生活をよりよくするための施設やイベントなど、大仙市と似ている取組があるのではないか。
- ・大仙市、オーストラリア共に生活の質を向上させるための取組があり、私たち世代にも興味や関心をもたせるための工夫があるのではないか。

### 2 検証方法

- (1) 大仙市が行っている地域を元気にするための取組について調べる。
  - ・「地域活性化」の取組について身近な人に質問したり、大仙市の広報誌で調べたりする。
  - ・周りの人たち（家族・学級の人たちなど）にどのような取組に興味があるのか尋ねる。

- ・「地域活性化」につながっている施設などを訪れる。
- (2) オーストラリアの地域を元気にするための取組について調べる。
- ・地域を活性化するためにどんな取組があるのか、ホストファミリーに質問する。
  - ・オーストラリアの「地域活性化」に対する取組や特徴について、現地で活躍している日本人にインタビューする。
- (3) (1) と (2) を比較する。
- ・共通点や相違点を分析する。



はなび・アム

### 3 調べた内容

#### (1) 大仙市の地域を元気にするための取組

「大仙市くらしのガイドブック」「だいせん日和」「大仙市どど〜んとまるごと ふるさと探訪ポケットブック」などを参考にしたり、実際に「はなび・アム」を訪れたりして活性化について調べてみました。また、「ペアーレ」を利用している祖母に、どんな気持ちで受講しているのか聞いてみました。

#### ◇イベント

- ・大仙市音楽祭
- ・夏祭り（花火ウィーク）、みのりフェア
- ・全国花火競技大会 など



花火大会は季節ごとに行い、観光客も多く、町が活気にあふれる。私たち世代も興味をもって参加できるイベントが多い。

#### ◇生活の質の向上

- ・健康増進センター
- ・高齢者ふれあいセンター
- ・ペアーレの講習
- ・大仙市循環バス、コミュニティーバス、市民バス、乗合バス
- ・配食サービス
- ・ふれあい安心電話 など



特に高齢者が安心して生活できる取組が多くあった。また「ペアーレ」のように幅広い年齢層の人達が利用している取組もある。様々な講座があり、楽しみや生きがいにもつながっているようだ。

#### ◇施設

- ・花火伝承文化継承資料館（はなび・アム）
- ・観光情報センター（グランポール）
- ・市民会館、ドンパル
- ・市民活動交流拠点センター（Anbee）
- ・球場、スキー場、ゴルフ場、体育館
- ・総合公園テニスコート
- ・こめこめプラザ
- ・コミュニティーセンター など



地域の人たちが集うことができる施設や「はなび・アム」のように観光施設として活性化の役割を果たしている。

#### ◇その他

- ・くらしのガイドブック
- ・大仙市キャラクター（まるびちゃん・つつどん・はなちゃん）
- ・観光グッズ など



キャラクターやグッズは大仙市のイメージを印象づけるために効果的である。また、小・中学生が積極的に地域の魅力を見つけられる「大仙ふるさと博士」の取組や、ボランティアの募集を行っている。

## (2) オーストラリアの地域を元気にするための取組

ホストファミリーの Tracy さんに、次の4項目の取組について質問しました。

### ◇イベント

- ・11月のフェスティバル など

住民の誰でも参加でき、木を使った工作、パレード、花火を楽しむものだった。Tracy さんの住む地域は自然が豊かなため森の中でフェスティバルが催される。



自然の風景

### ◇施設

- ・市民活動拠点センター
- ・観光情報センター・共同ビニールハウス
- ・学校の校庭・体育館・公園 など

地域の人が集える施設が多くあった。滝やたくさんの木がある公園も多く見られた。共同ビニールハウスは住民の誰でも野菜や花を育てることができる場所だった。



観光情報センター



共同ビニールハウス

### ◇生活の質の向上

- ・家の掃除代行サービス
- ・芝刈り代行サービス
- ・フリーバス
- ・各家庭にごみ収集車が来る など

Tracy さんの住む地域でも高齢者向けのサービスが多かった。フリーバスは60歳以上の人が無料で利用できて、買い物やドライブを楽しめるようだ。2つの代行サービスは1時間で2ドル(約160円)とのこと。大仙市では決まった場所にごみを置きに行くが、この地域では、朝、ごみ収集車が各家庭をまわってごみを集めていた。

各家庭にあるごみ箱



### ◇その他

- ・地域のキャラクター
- ・広報誌
- ・乗馬・バイクなどのクラブ など

地域のフットボールチームのキャラクターとしてトラのキャラクターがいた。広報誌もあり、お店の広告や住民のスナップ写真など、いろいろな項目で構成されていて見応えがあった。また子供たちが習い事や部活のように行えるクラブもあった。



地域に親しまれているキャラクター

地域の広報誌

## 4 考察

Tracyさんの住む地域では生活を豊かに居心地よくするための様々な取組があり、Tracyさんは充実した生活を送ることができているということがよく分かりました。特に私は、朝、各家庭の前にごみ箱を置いておくのごみ収集車がそのごみを集めていくという仕組みに驚きました。大仙市と似ている取組もあり、フリーバスは生活がしやすくなる、とてもよい取組だと思いました。近所をドライブしていると、Tracyさんは対向車に乗っている人や外にいる住民に向かって笑顔を見せたり、手を振ってコミュニケーションをとったりしていました。このようなTracyさんの行動を見て、住民同士顔なじみで仲良しだということが地域活性化につながっているのではないかと考えました。

大仙市はTracyさんの住む地域と同じくらい取組が充実していてよい街だと思います。だから、この事実を大仙市に住む多くの人に知ってもらうこと、その事実を踏まえて、私たちが地域の取組に積極的に参加すること、そして、住民同士があいさつを大切にしてコミュニケーションをとり合うことの3つができるとTracyさんの住む地域のように住民が生き生きとし、より「住みたい」と思ってもらえるような地域をつくっていけるのではないかと考えました。このことが人口減少を防ぐことにも繋がっているのだと思います。大仙市のいろいろな取組に目を向け、コミュニケーションを大事にしながら地域活性化に貢献していきたいと思います。

## IV エピソード

### 1 ファームスティーでの出来事

私たちのホストマザーのTracyさんは、とても優しくフレンドリーな方でした。Tracyさんの家にはお手玉や扇などの日本に関するものがたくさん飾ってありました。羊、鶏、アヒルを飼育していて毎日、餌をあげました。

滝、スーパーマーケット、ビーチ、牧場、チョコレートやチーズを作る工場、インフォメーションセンター、お茶の工場など様々な場所に連れて行ってくださり、新鮮なことだらけでした。また、Tracyさんの作る料理はどれもおいしくて、私は「Delicious」の連続でした。特にミートスパゲッティがお気に入りです。

ドライブ中、オーストラリアの広大な自然に驚かされました。「Nice view!」と話しかけると、景色がきれいに見えるポイントを通りかかるたびに「Let's take a picture!」と言ってくださったおかげで、研修中に撮った写真の数は1000枚を超えました。Tracyさんの家は森の中にあり、野生のワラビーも見ることができました。

### 2 オージーキッズとの交流

マンガリーフォールズではオージーキッズと交流をしました。オージーキッズはみんなフレンドリーですぐに仲良くなることができました。自分が思うように、伝えたいことが英語で表せ



Tracyさん



日本に関するもの



オージーキッズ

なくてもオージーキッズは最後まで耳を傾けて話を聞いてくれました。

お別れパーティーのダンスタイムでは、言語の壁など何も関係なくみんなが一つになれるという感覚を感じることができました。これからの生活でもこの感覚を大切にしていきたいと強く思いました。今の自分に大切なことを多く学ぶことができた一日となりました。

### 3 現地で活躍する日本人へのインタビュー

#### ・日本語の教師をしている中村有佳さん

Q 英語を話すときに大切なことは何ですか？

A 笑顔、相手の話し方に合わせること、できないことはできないとはっきり言うこと。

#### ・東日本大震災後、寄付金集めをしているマッカーシー麻紀さん

Q どんな人が寄付してくれますか？

A 10歳～高齢者まで様々。日本人に比べて、現地の人は寄付を楽しみながらやっている感じ。現地の人は寄付が日常的。

#### ・バードガイドをしている太田祐さん

Q なぜ海外で働こうと思ったのですか？

A 中学生の頃から外国に行きたいと思っていた。日本人は丁寧、オーストラリアの人はフレンドリーなぶん、小さなことを気にしない。そんな国民性の違いにひかれたから。

#### ・日本でプロのバイクのレーシングライダーをしていた水野那由太さん

Q どのように英語を勉強しましたか？

A 勉強は嫌いだったから英語のマンガで勉強した。苦手なことはうまく工夫して、好きなことは武器にすることが大切。

## V 海外研修を終えて

私は小学生のころからこの研修のことを知っていて参加できると分かったときは本当に嬉しかったです。今回の研修に参加するとしないとでは自分自身にかなり大きな違いがあったと思います。「こんなすばらしい機会こそチャンス！」と自分に言い聞かせて、ホストマザーのTracyさんやオージーキッズに積極的に話しかけることに努めました。また、オーストラリアの人の優しさに何度も助けられました。例えば、私がオーストラリアドルの使い方がわからなかったとき、お店の店員さんやホストマザーと一緒にお金を数えてくれて、楽しい買い物にすることができました。マンガリーフォールズで私はオージーキッズに「Are you enjoying?」と聞かれてしまいました。私が楽しんでいるのかとオージーキッズに心配をかけてしまいました。確かに私はオージーキッズとの交流の際、自分の気持ちを表したくても、うまく英語にすることができなくて黙ってしまった時がありました。この経験からもっと英語を学んで自分のものにしていかなければと感じました。この研修で得たことを自分の糧とし、自分自身を成長させていきたいです。そして私の将来にも結び付けていきたいと強く感じています。



# オーストラリアレポート

No. 6 大曲中学校 千葉 向葵

## I はじめに

1月4日いよいよ待ちに待ったオーストラリア研修が始まりました。はじめは、この研修に参加できるかどうか不安な気持ちがありましたが、決まった瞬間はとても嬉しかったです。同時に「この研修で自分を成長させたい」と心の中で決意しました。出発当日、楽しみでワクワクする気持ちと、少し不安でドキドキする気持ちで秋田新幹線こまちに乗り込みました。



Departure Time

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

『たくさんの人が訪れる大仙市にするにはどうすべきか？』

### 2 設定理由

私たちが暮らす大仙市には、大曲の花火の時以外は観光客があまり多くありません。年間を通して観光客を増やすことが大仙市の大きな課題の一つだと思います。なぜなら、普段から観光客が訪れることで、色々な店に大勢の人が入り、またそれにより様々な店が必要になり、地域が活性化されるだろうと考えるからです。

そこで少しでも地元の大仙市のためにできることを考えたいと思い、このテーマを挙げ研修を通して調べていくことにしました。

## III 調査開始

### 1 疑問

研究テーマを決めた時、一つの疑問が出てきました。「どうして普段の大仙市には観光客があまり訪れて来ないのだろう」というものです。

大仙市には“大曲の花火”があって全国的に有名です。“毎月花火が上がる街”として情報発信しているのに8月の花火大会以外は観光客が少ない現状です。

そこで私なりに考えてみました。すると、「大仙市の魅力をうまく発信できていないのでは？」ということと「そもそも、大仙市の花火以外の魅力は何だろう？」という新たな疑問が生まれました。

## 2 予想

たくさんの方が訪れる街にするためには、次の三つが重要になると思いました。

- (1) 大仙市の良さをアピールしていくこと
- (2) 何度も訪れたいくなるような工夫をすること
- (3) 興味を引くことのできる施設を増やすこと

この中から「(1) 大仙市のよさをアピールしていくこと」にスポットを当てて調査しました。

## 3 調査

### (1) 大仙市の魅力とは

大仙市のよさをアピールしていくには、「花火以外の魅力」について知らなくてはいけないと思いました。そこで、どんな魅力があるか、どのくらい知っているかクラスのみんなにアンケートを行いました。アンケートを行う際、「大曲の花火以外で」とお願いしたところクラスの人たちから、「花火以外なんてわからない」、「大仙市の魅力って何？」という声が初めに上がりました。このことから、まずは魅力に気づき、その魅力を県外の人たちにアピールすると同時に、県内の人たちにもアピールしていかななくてはいけないと思いました。

アンケートの結果は大きく分けて二つ。一つ目は、刈和野の綱引きや、梵天などの「祭り」行事。二つ目は緑の多さや雪がある風景などの「自然」が多く出ました。

### (2) オーストラリア「ケアンズ」の魅力とアピール方法

ファームステイ先のオーストラリア東部地方にあるケアンズの魅力とその発信方法をホストファミリーに聞いて分かったことと、私が調べて感じたことなどを紹介します。

Q 地域の魅力は何ですか。

- A
- ・街が小さいこと
  - ・とても穏やかなこと
  - ・みんなフレンドリーだということ

Q 魅力について、どのように発信していますか。

- A
- ・ファームステイ先として受け入れ、伝えている
  - ・声に出し伝える



Warren's farm

私は、「街が小さいことが魅力」と聞いて驚きました。街が小さいと田舎みたいとマイナスなイメージを持っていたからです。たしかに、ファームステイ先の住宅の近くに店が少なく、大きな町ではなかったけど、自然豊かな魅力を感じました。

また、私がお世話になったファームステイ先の Warren さんは酪農家です。農家仲間の方のところへ連れて行ってもらったところ、初めて会った私たちにもフレンドリーに笑顔で接してくれる優しい方々がいました。自然だけでなくそこに住む人々の温かさも魅力と言えらると思いました。

## 4 考察

研修を通して、オーストラリアは自然がとても豊かでフレンドリーな優しい人が多く、とても魅力的なところだと思いました。ファームステイ先の方が連れて行ってくれた観光スポットでは、その魅力を前面に出し、私たちのことを楽しませてくれました。

大仙市にたくさんの方が訪れるようにするには、花火以外の魅力を再認識し、積極的にアピールしていくことが必要だと思います。例えば、アンケートに多く出た祭りについては、伝統や決まりを守らなければいけないものもありますが、積極的にその祭りをアピールし、参加してもらうなど、来てくれた方が興味をもち楽しんでもらえるような工夫をしたらよいと思います。

大仙市には、花火のインパクトに隠れてしまっていますが、伝統行事や豊かな自然などたくさん魅力的なものがあります。その魅力を時代の流れに沿ってアピールの方法を変えていけば、より多くの方が大仙市を訪れてくれるのではないのでしょうか。今、一番よい方法はSNSなどを使った情報の拡散だと思います。より多くの人に大仙市のよさを伝え訪れてみたいと思ってもらえるようにしていければと考えました。

## IV エピソード

### 1 ファームステイでの驚き！

ファームステイ二日目。Warrenさんが車で、広大な敷地の農場を案内してくれました。

まず最初に驚いたのは、牛のミルクを絞る小屋を見せてもらった時です。とても大きく、立派な小屋だったのですが、「これは私が作ったのだよ」と言われ、思わず「Really!？」と聞き返してしまいました。しかし、Warrenさんが手作業で作ったものはこれだけではありませんでした。広い敷地に佇むツリーハウスも手作りで、ブランコもついていました。家に向かうまでの道の脇の柵なども全部手作業で作ったと聞きました。DIYで作ったとは考えられない完成度の高さ、すばらしさにとても驚きました。

### 2 不思議できれいな大自然！

Warrenさんから連れて行ってもらった公園に、「Curtain Fig Tree」という、とても幻想的な木がありました。長い年月をかけてできあがったその木は、私たちを引き込む魅力がありました。



Curtain Fig Tree

## V 海外研修を終えて

今回の研修で、私は出発前に心に決めた「自分を成長させる」という目標を達成することができました。それは、自分から進んで活動する積極性の大切さに気付いて、努力できたことです。

初めての海外、初めてのファームステイ、初めての本場の英会話など、初めてのことがたくさんありました。普段は人任せにするなど、消極的な部分がある私ですが、初めてのことにも積極的に取り組むことができました。これは大きな成長の一つです。学校生活の中で初めてのことに憶さず自分から取り組みたいです。

また、研修中は感謝の気持ちを伝えることがとても多かったです。今後も、素直に周囲に感謝を伝えていきたいと思います。ファームステイ先でお世話になった Warren さんと Ann さん。初めて会ったにもかかわらず、笑顔で接してくれたオージーキッズたち。一緒に行動を共にした友達。旅行会社の古村さん、引率の佐々木先生、牛木先生。そして、出発までの時間と出発してからのことなどたくさんのサポートをしてくれた家族。今回、私たちが思いっきり楽しんで、全力で研修に取り組むことができたのはたくさんの方の協力とサポートがあつてのことです。心から感謝しています。

私が体験して感じたこと、考えたことを伝えるとともに、感謝の気持ちもしっかりと伝えていきたいです。

# Thank You Australia !

## I Love Australia !



My Best Friends



Memorial Photo



Kuranda Scenic Railway



Beautiful Beach

# オーストラリア レポート

No. 7 大曲中学校 富樫 花音

## I はじめに

「現地の方の英語は聞きとれるのか」「買い物の時お金を使いこなせるか、正確におつりをもらえるか」「手荷物検査で申告していない薬や食べ物のことを聞かれたら説明できるか」等、出発が近づくにつれ、スーツケースの中身と心配事が増えてきました。それと同じくらい、自分の目で壮大な景色を見ることがやシュノーケリングに挑戦すること、現地の方との交流など研修への期待も膨らみました。期待と比例して、スーツケースも最大限に膨らみました。

出発式でのあいさつ 1月4日：大曲駅

Happy new year. Today is special. I'm very happy today.

オーストラリアに出発する日を迎えました。皆さん！パスポートの準備はOKですね！私は肌身離さず持っています！では出発のあいさつを少し話します。

これまで学習会でたくさん勉強してきました。その学びを発揮する時です。今、私はドキドキとワクワクで胸がいっぱいです。でも少しだけ不安な気持ちもあります。ですがオーストラリアに着いたら期待がさらに大きくなり、不安は吹き飛ぶと思います。大仙市の代表として自覚をもち、オーストラリアで待ち受ける全ての出来事を楽しみながら、自分のテーマを達成できるよう頑張ります。また家族のたくさんのサポートによって今日を迎えられた事に感謝を忘れず頑張ります。お世話になる牛木先生、祥子先生、旅行会社の古村さんよろしくお願ひします。出発のあいさつを終わります。「いってきます。」

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

#### 『 大仙市の魅力を再発見

—Please tell me which one interests you the most.— 』

### 2 設定理由

大仙市には、旧市町村の行事やイベントがしっかりと受け継がれ、残されています。それぞれが魅力的なものであり、観光客を喜ばせています。海外にもPRできるものがたくさんあると思います。外国人（オーストラリアの方々）が興味を示すものを調べることで、その魅力を再発見できると考えテーマとして設定しました。

## III 検証方法と予想

### 1 検証方法

現地でアンケート調査を行う。説明の言葉（文章）や写真を使って、アンケートボードを作り、五つ（大曲の花火、刈和野の大綱引き、中仙のジャンボウサギ、雪、神岡の500歳野球）の中で一番興味があるものを選んでシールを貼ってもらう。



作成したアンケートボード



秋田の人たちは、雪で多くのことを楽しんでます。例えば、「雪だるま」「雪合戦」「スキー」「スノーボード」「そりすべり」など

シールを貼ってもらう場所

次の五つについてアンケート調査しました。

- (1) 大曲の花火→国内では有名ですが、オーストラリアでの反応を知りたいと思ったから。
- (2) 刈和野の綱引き→オーストラリアにはない文化であることから、目を引くと思ったから。
- (3) 中仙のジャンボウサギ→オーストラリアにはたくさんの動物がいます。ビックサイズのウサギに興味をもつと思ったから。
- (4) 雪→「触れてみたい・遊んでみたい」という気持ちになるのではないかと考えたから。
- (5) 神岡の500歳野球→野球はオーストラリアでも行われています。特別なルールに驚くと考えました。

## 2 予想

この五つの他にも「枝豆」「納豆汁」といった食べ物と「払田の柵」「唐松神社」「檜岡焼」といった日本独特の歴史があるものも候補として考えましたが、行事・イベントに絞りました。どれも興味をもってもらえると思いましたが、現地の方々は普段から動物に親しんでいることから、ジャンボウサギを選ぶのではないかと予想しました。

クラスの友達にも協力してもらいアンケート調査を行いました。結果は次のようになりました。

大曲中学校2年3組 28名 (12月14日) □……主な理由

- 1位 大曲の花火 (22名)
  - 全国的に有名 大規模・華やか
  - SNSで広がっている
- 2位 雪 (3名)
  - 雪が降らないから
  - 見たことがないから
- 3位 神岡の五百歳野球 (2名)
  - 現地で野球は有名
- 4位 刈和野の綱引き (1名)
  - 外国ではやらないから
- 5位 中仙のジャンボウサギ (0名)

**アンケートの協力をお願いします** [お名前: \_\_\_\_\_]

☆1月にオーストラリア研修に行きます。その時に現地で「あなたが大曲市に来たら1番見てみたいものはどれですか」という質問をしようと思っています。

そこで、オーストラリアに住んでいるみなさんが1番見たいと思うものを予想してください。質問するのは下の5つです。1つに○をつけてください。

大曲の花火    刈和野の綱引き    ジャンボウサギ (中仙町)

雪 (スキーやスノーアート)    500歳野球 (神岡町)

もしよければ理由も書いてください。

{ 全国にも有名で、外国の人にも興味があると思っ  
てから。 }

アンケートのご協力ありがとうございました。 富樫 花音

友だちを書いてもらったアンケート

## IV 調べた結果と考察

### 1 調べた結果

現地で25名（大人9名，子ども16名）の方がアンケート調査に答えてくれました。オージーキッズ，マンガリーフォールズで働いている方や利用している方，ファームステイ先のホストファミリーにも聞くことができました。結果は次のようになりました。

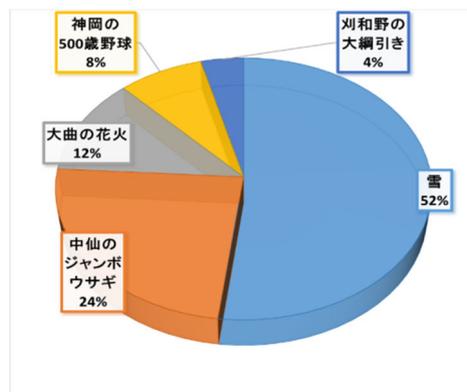
1位 雪（13名）

2位 中仙のジャンボウサギ（6名）

3位 大曲の花火（3名）

4位 神岡の500歳野球（2名）

5位 刈和野の大綱引き（1名）



○一番多く選ばれたのは雪でした。特にオージーキッズの男子に多く選ばれました。ボードを見ている時の様子から，雪のことを知っているようでした。雪に対するあこがれがあるのかもしれないと思いました。

○学級でのアンケートで1位（22名）だった**大曲の花火**は，あまり関心がないようでした。選んだのは大人2名子ども1名でした。地元にいる私たちは，毎年見ていて魅力を理解していますが，写真と短い説明では，その魅力を伝えることができなかつたのだと思います。会話（英語で説明）ができたならもう少し魅力が伝わったかもしれないと感じました。

○**ジャンボウサギ**は大人にも子供にも好評でした。選ばなかつた方も一度はボードの写真や説明を見ていました。

○**500歳野球**はホストファミリーの方が選びました。「ルールが面白い」「自分がソフトボールの投手をしていたから」という理由でした。マンガリーフォールズでは誰も選びませんでした。

○**刈和野の大綱引き**は1名でしたが，3名の方に詳しい説明を求められました。写真だけではなく，もっと詳しい説明が英語でできれば，さらにその魅力が伝わったかもしれないと思いました。

### 2 考察

25名の方に答えてもらいましたが，もっと多くの人に聞くことができれば結果は変わったかもしれません。結果は雪が1位（13名）となりました。私たちにとっては見慣れている雪が，オーストラリアの方々には魅力であることを再発見しました。雪が降らない他の国でも同じことがいえるかもしれません。国内では，大仙市といえば花火というイメージが定着しています。しかし今回のアンケート結果によると，オーストラリアでは人気が集まりませんでした。このことも再発見となりました。大曲の花火や刈和野の大綱引き，神岡の500歳野球は，その場の迫力が魅力の一つです。つまり実際にその場で体感しないと魅力が伝わりにくいのではないかと思います。これらの魅力を効果的に伝えるには，臨場感が伝わるような工夫が大事だと思いました。2022年から始まる国際花火大会のPR活動にも注目したいです。

## V 思い出の一コマ



ファームステイではいろいろな場所に連れてってもらいました。(ファームステイ先)



ファームステイ先でおにぎりを作りました。「Good!」と褒めてもらいました。(ファームステイ先)

コアラやワラビーと対面。ワラビーはありったけなでできました。コアラはのんびりしたところに癒されました。(レインフォレストステーション自然公園)



片方の馬をなでていたら、もう1頭に回り込まれ、気がつくとも挟まれていました。友だちは牛にクシャミをかけられていました。(ファームステイ先)



シュノーケリングに挑戦しました。実は一番楽しみにしていた活動です。シュノーケルとフィンをつけて泳ぎます。サンゴ礁と熱帯魚と魚の群れに出会いました。言葉にならない感動でした。つつい遠くまで泳いでしまいました。(グリーン島に向かう船)



ショッピングでカンガルーとクロコダイルのジャーキーを試食しました。カンガルーの方がおいしかったです。(レインフォレストステーション自然公園)

## VI 海外研修を終えて

今回の研修で多くのことを学ぶことができました。特に心に残っていることが二つあります。

一つ目は、きちんとした文法表現ができなくても言いたいことは伝わるといことです。どうしても伝えたいことは、身振り手振りを多くしたり、単語を繰り返したりして一生懸命に伝えました。すると何かしらの反応が返ってきました。その反応で、自分の言いたいことが伝わっているの分かりました。スムーズな会話ではありませんでしたが、これもひとつの会話の形なのだと思います。初めてホストファミリーに話しかけた言葉は「景色がきれいですね」です。たわいもない会話でしたがこれをきっかけに自信がつき、その後は自分から話しかけられるようになりました。この経験を踏まえた上で、自分の気持ちをより正確に伝えられるようにもっと英語を学びたいと思いました。二つ目は、オーストラリアのスケールの大きさに圧倒されたことです。道路の脇にいた馬や羊、お皿に山盛りのポテトと特大のステーキ、青と緑に分かれている美しい海、アボリジニの伝統的なダンスなど見るものすべてに感動を覚え、文化の違いを肌で感じました。(帰国後、リビングの全ての物が一回り小さく見えました。)

今回、自分の考えだけにとらわれず、海外の考え方を学び、新しい自分を見付けたいと思い、この研修に応募しました。オーストラリアでは、様々な体験を通して、新しい考え方を手に入れ、レベルアップすることができたと思います。そして、この研修を通して日本とは異なるオーストラリアの風土や文化についてたくさんの発見があり、他の国はどんなのだろうという興味がさらにわいてきました。将来他の国にも行ってみたいです。そして英語をしっかりと学んで、改めてオーストラリアに足を運びたいです。最後にお世話になった牛木先生、祥子先生、旅行会社の古村さんへ感謝の気持ちを伝えたいです。本当にありがとうございました。

# オーストラリアと大仙市の違い

No. 8 大曲中学校 益満 昂佑

## I はじめに

待ちに待ったこの時がやってきました。この研修のために時間をかけて学習に取り組んできました。今回、僕がこのオーストラリア研修に参加しようと思った理由は二つあります。一つ目は、「海外は日本に比べて犯罪が多く、治安が悪い」と聞いたことがあり、自分の目で確かめたいと思ったからです。僕は、幼稚園の頃、一年間アメリカに住んでいたことがあります。現在、オーストラリアではどのようなことが起きていて、人々はどのように暮らしているのか見てみたいと思いました。二つ目は、海外の人たちとどのくらいコミュニケーションをとれるか、自分の力を試してみたいと思ったからです。出発前からドキドキが止まりませんでした。そしてついに1月4日を迎え、オーストラリア研修がスタートしました。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

『オーストラリアではどのような環境問題が起きているのか？』

『また、その問題をどのようにして解決しているのか？』

### 2 設定理由

私たちが暮らす大仙市とは違い、オーストラリアは季節が反対です。また、水が少ないことや気温が高いことなど、大仙市で暮らしていると分からないようなことがあります。そのような問題にいかに取り組んで解決しているのかを調べ、自分の目で確かめてみたいと思ったからです。

## III 研究テーマについての予想、検証方法、考察

### 1 予想

- ・オーストラリアでは、紫外線を防ぐために日焼け対策を入念に行っているのではないかと予想。
- ・水が不足しがちなため、それぞれの家庭が節水を心がけているのではないかと予想。

### 2 検証方法

- ・インターネットで気候の問題点やその解決策について調べたり日本と比べたりする。
- ・ホストファミリーの生活の様子、街、スーパーマーケットの様子を自分の目で確かめる。

### 3 調べて分かったこと

事前にインターネットで調査すると、オーストラリアは紫外線の量が日本の4倍近くあることや、国土の18%が砂漠であるために水が不足しがちになるということがわかりました。

オーストラリアでホストファミリーに聞いたところ、紫外線が強いため、日焼け止めクリームを塗るなど対策をしていました。熱中症対策として軽い服装をしていました。また、節水のために『シャワーは3分以内で』というルールがあり、食器洗いや洗濯等日常生活でも水の節約に努めていました。実際に雨水を貯水タンクに貯めて生活用水にしていました。スーパーマーケットでは、ペットボトルの水が一本300円する店もありました。そうした様子を見て、水の大切さを感じることができました。



## IV エピソード

ホームステイさせていただいた家庭は牧場を営んでいる家族だったので、牛や羊など様々な動物と触れあうことができ、家畜にえさを与えたり、散歩に連れて行ったりして、とてもよい体験ができました。また、モーターバイクに乗って牧場の中を走ったりしました。夜の警備に連れて行ってもらい、猛毒をもつカエルなどに会ったことが印象に残っています。

食生活については、オーストラリアは昔、イギリスの植民地だったことから、ステーキやバーベキューなどの肉食文化が根強いように思いました。二日目には近所の人たちとモーニングティーを楽しんだり、ピクニックに出かけたりと、近所同士の付き合いが多く、関わりが深いと感じました。三日目はミラミラ滝などの大きな滝を見に行きました。野生のカモノハシや猿、亀など、様々な動物を見ることができました。

日本からのお土産として、ホストファミリーの方に箸や小物入れなどの日本の物をプレゼントしたところ、すごく喜んでくれました。特に僕が持参した、花火や漢字が書かれた服や、富士山や浮世絵が描かれている箸などを喜んでくれました。

◎ホストファミリーにインタビュー

㊦ 日本はどのような国だと思いますか。

A 伝統的な建物があり、素晴らしい国のイメージです。



英雄との写真

## 1 キュランダ

有名な山岳を走るキュランダ高原列車に乗車しました。ゆっくりと走ってくれるので奥深い熱帯雨林、切り立った狭谷や滝などの大自然を眺めることができる、素晴らしい鉄道でした。その後、キュランダ駅からレインフォレストーションという施設に移動し、昼食をとりました。カンガルーの肉を食べたり、ワニのスープを飲んだりしました。どれも味わったことのない味で、とてもおいしかったです。その施設には、オーストラリア特有の動物を飼育している動物園があり、その中で有名なコアラを見たりカンガルーに触れたりするなど、貴重な体験ができました。



キュランダ鉄道



根でできている木

## 2 グリーン島

グリーン島は世界遺産にもなっているグレート・バリア・リーフにあります。シュノーケリングをして美しい海を満喫したりすることができます。海がものすごく透明なので様々な種類の魚が多く生息していて小魚が海面を覆いつくすほどの小魚がいました。サンゴ礁や海藻なども多く、日本では見る事ができないような、豊かで美しい海を見ることができました。

## 3 オージーキッズとの交流

僕たちは DA PUMP の「USA」のダンスと伝統的な二人羽織を披露しました。二人羽織がオージーキッズに大人気でとても盛り上がりました。マンガリーフォールズは池で遊んだりできるなど自然に囲まれた場所でした。オージーキッズはとても積極的で、楽しく交流することができました。

### 現地で活躍する日本人にインタビューしました！

- Q オーストラリアの気候は過ごしやすいですか。
- A 1年を通してとても暑く、熱帯雨林気候のおかげで自然が豊かです。ただし生活用水は不足しがちです。
- Q 日本と比べて、オーストラリアにはどのような違いがありますか？
- A いろいろな国から人が集まってできているから様々な文化があります。みんな明るくフレンドリーです。
- Q オーストラリアのよいところは？
- A 自然が豊かで動物がたくさん住んでいるというところです。

Q オーストラリアで大変なことは何ですか？

A 日本語が通じなくて、日本人と意識が違うところ。  
大切なときに空気を読んでもらえず困ることがあります。  
みんなが話の輪にどんどん入ってくるときがあります。

## V 海外研修を終えて

今回の研修で私が学んだことは、「コミュニケーション能力を身に付けることの大切さ」と「環境問題」についてです。オーストラリアの人々は、道ですれ違った人にも気軽にあいさつをし、誰にでも親切に接する心優しい人たちでした。英語での会話に慣れていない僕たちにもフレンドリーに接してくれ、僕たちのことを歓迎してくれました。僕は、その姿をしっかりと見習いたいと思いました。普段の生活でも、自分から進んで挨拶をしたり、周囲の人に心を開いて穏やかに接したりできるようにしたいです。

オーストラリアの節水の様子を見て、水の大切さや節水の方法について考えることができました。また、紫外線対策の方法、気温上昇に備えることの必要性など、環境問題について考える機会となりました。同じ地球に住む一員として、オーストラリアの人々を見習いたいと思いました。海外は治安が悪いと聞いていましたが、私が滞在した街は、下の写真のように豊かな自然の中で動物と共存している平和な場所でした。犯罪は少なく、心優しい方ばかりだと感じました。

今回の研修を通して体験し感じたことを、将来につなげていきたいと思いました。研修に送り出してくれた家族や旅行中お世話になった方々、本当にありがとうございました。



公園から、滞在した街を見下ろした写真

# オーストラリアレポート

No. 9 大曲西中学校 大和田 優菜

## I はじめに

私がこの研修に応募した理由は二つあります。

一つ目は、この研修を自分の将来に生かしたいと思ったからです。私は将来、英語に関わる仕事に就きたいと考えているので、とてもよいチャンスだと思いました。

二つ目は中学校に入学した時から自分もこの研修に参加したいと思っていました。昨年、この研修に参加した先輩方から話を聞いて、自分も行ってみたいという気持ちがさらに強まりました。また、それと同時に、自分の英語力も試してみたいと思いました。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

『大仙市のよさをアピールできる観光スポットをたくさんの人に知ってもらうには？』

### 2 設定理由

私たちの住む大仙市には観光スポットがあっても観光客が多いとは言えません。そこで、オーストラリアではどのようにしてPRしているのかを調べたいと思いました。そして大仙市の最大の魅力でもある大曲の花火以外の観光スポットをもっとたくさんの人に知ってほしいと思い、このテーマを設定しました。

## III 研究テーマについての予想、検証方法、調べた内容、考察

### 1 予想

- ・オーストラリアではチラシや広告、看板を工夫しているのではないだろうか？
- ・観光地ならではの記念品などを作っているのではないだろうか？

### 2 検証方法

- (1) 大仙市の観光スポットをリサーチする。
- (2) ホストファミリー&現地にいる日本人に、現地の観光のことについて質問する。

### 3 調べた内容

- (1) 大仙市には、協和スキー場、旧池田氏庭園、大台スキー場、払田柵跡、唐松神社、くらしの歴史館、大曲の花火などがあります。
- ・旧池田氏庭園⇒明治時代後期から大正時代に作庭された見事な日本庭園。
  - ・唐松神社⇒子宝・安産にご利益があると評判・パワースポットとしても有名。
  - ・くらしの歴史館⇒体験型の総合資料館・建物は閉校した小学校の空き校舎を活用。
  - ・大曲の花火⇒例年8月最終土曜日に開催される。全国の花火師が製造した花火をコンクール形式で競い合う。また、大仙市では花火が上がるイベントが毎月開催されている。
- (2) オーストラリアの観光の魅力は、日本にはない大自然を味わえることだそうです。都市部からでも約10分ほどドライブすると大自然の絶景を間近で見られるそうです。また、日本について何か知っていることはないかと聞くと、東京や大阪については知っていましたが、やはり秋田については知りませんでした。観光スポットをたくさんの人に知ってもらうために、オーストラリアでは次のような取組がされていると思いました。
- ①看板が目立ち、思わず入りたくなるような感じだった。
  - ②内容が伝わりやすいチラシや看板を店内でも表示していた。
  - ③カンガルー付きのペンや、コアラと一緒に記念撮影ができるなどの、インパクトのある記念品を作っていた。

### 4 考察

オーストラリアでは、自然を生かして観光客が来たいと思えるようなPRをしていると思いました。動物園では柵を越えて動物たちと触れ合うことができます。さらに、幅広い年代の方々でも楽しめるように工夫されたチラシやパンフレットを活用していました。また、英語で何が書かれているか分からない私でも楽しめるような工夫がされていました。大仙市でも、自然をもっと生かした観光地の特色やパンフレットを作れば、きっと大仙市の観光スポットをたくさんの人に知ってもらえると思います。

そして、大曲の花火以外でももっとたくさんの人に知ってもらうために、雪が降らない地域に住んでいるの方々には雪を利用した体験型観光プランや特産品を作ったり、大仙市の素晴らしい四季を生かした、日本語が分からなくても楽しめるような外国人向けのパンフレットやチラシを作ったりすればよいのではと思いました。



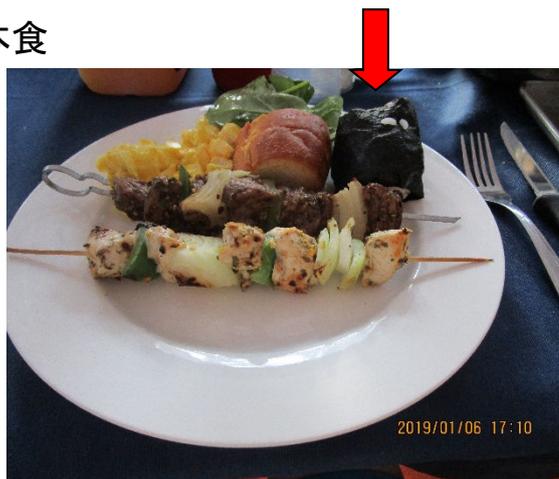
馬との触れあい

## IV エピソード

ホストファミリーのために作ったおにぎり

### 1 ホストファミリーのために作った日本食

ファームステイ二日目の午後、私たちはホストファミリーへのお土産としておにぎりを作ってごちそうしました。おにぎりの具は日本らしい物がいいと思い、梅干しにしました。そして、その日の夕食と一緒に食べました。みんな、「おいしい」と言って食べてくれました。おにぎりを作る時に使った海苔もプレゼントしました。梅干しはすっぱいので少し不安でしたが、「おいしい」と言ってくれたので嬉しかったです。



### 2 Aussie キッズとの交流

ファームステイが終わった翌日、私たちはAussie キッズと交流しました。最初は一緒に昼食を食べましたが緊張していてうまく話せませんでした。その後、みんなで水着に着替えて沼で一緒に遊びました。ロープを渡って沼に飛び込んだり、みんなで協力していかだを作ったりしました。そこでは、たくさんコミュニケーションをとることができて、うれしかったです。また、交流してみて気付いたのはAussie キッズの中にはハーフの子がたくさんいてとても話やすかったということです。夜もみんなで食事をしました。その後、私たちはダンスと二人羽織を披露しました。ダンスはみんなでペンライトを持って踊りました。二人羽織では男子が二人一組になって披露しました。オーストラリアの文化と違うので盛り上がりももらえるか少し不安でしたが、一緒に踊ってくれたのでとてもうれしかったです。Aussie キッズとの交流はとてもよい思い出になりました。

### 3 現地で活躍する日本人4人にインタビュー

#### 水野那由太さんにインタビュー

Q・日本とオーストラリアの違いは？

- ・たくさん国の人がいろいろな文化の人がいる
- ・差別がない

#### 太田祐さんにインタビュー

Q・オーストラリアの環境問題は？

- ・ゴミ&工場排水などで海がよごれる

#### 中村有佳さんにインタビュー

Q・住んでみて分かった日本の魅力は？

- ・日本人の丁寧さ
- ・サービスのレベルが高い
- ・店員さんの丁寧な対応
- ・歴史がある

#### マッカーシー麻紀さんにインタビュー

Q・オーストラリアのいいところは？

- ・偉大な自然
- ・楽しむことを大事にしている
- ・人がフレンドリー

## V 海外研修を終えて

今回の研修で、オーストラリアと日本の文化の違いを学ぶことができました。私が一番大変だったことは、ファームステイ中シャワーは3分以内と言われたことです。改めて、オーストラリアは水を大切にしているなあと思えました。また、嬉しかったことはショッピングで店員さんが気さくに話かけてくれたことと、英語を使って買うことができたことです。お金を払ったり「袋をください。」と言ったり、自分が今もっている英語の知識を最大限に生かして話しました。オーストラリアに来て気付いた日本の素晴らしさは日本の店員さんの対応の方が丁寧なことです。ショッピングに行つてそれを実感しました。学んだことは、出会ったみんなに平等に接するという事です。私はこの研修に参加する前、外国人を見ると怖そうという偏見がありました。でもオーストラリアの人達は、初めて会った日本人の私たちにも他の人と同じように接してくれました。また、この研修を通して研修生みんなと仲良くなれたことがうれしかったです。私は、自分の中学校から唯一の派遣生でとても不安でしたが、だからこそ逆にみんなと積極的に話そうと思えました。ステキな思い出がたくさんできました。

この研修が私にとって一生忘れられない思い出になったのは、引率して下さった牛木先生、古村さん、祥子先生、支えて下さった家族、先生方のおかげだと思います。本当にありがとうございました。



ホストファミリーの gwen さんと bruce さんと bruce さんのお母さん

**Thank you so much!**

# オーストラリアレポート

No. 10 大曲南中学校 高橋 凜

## I はじめに

私がこの海外研修に応募した理由は二つあります。一つ目は、学校の英語の授業でスカイプを通じてオーストラリアの中学生と英語で交流する機会があったからです。その時は画面を通しての交流でしたが、実際にオーストラリアに行き、現地の方々と直接会って話をしたり、交流を深めたりしてみたいと強く思いました。

二つ目は、日本以外の国での文化や伝統、生活や人々の考え方を直接自分で見て、聞いて確かめてみたいと考えたからです。この海外研修を通して、自分の考え方や視野を広げるよい機会にしたいと思いました。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

『魅力再発見！住んでいたい・住んでみたいふるさと大仙市であるためにはどうしたらよいか？』

### 2 設定理由

私は、自分が暮らしているふるさと・大仙市が大好きです。それは、自然が豊かで人々が優しくあたたかいからです。しかし、今大仙市は、人口減少、少子高齢化など様々な問題が起こっています。そこで、私が大人になっても大仙市が「魅力あふれるふるさと」として、「住んでいたい・住んでみたいふるさと」であり続けるにはどうすればよいかと考え、この研究テーマを設定しました。

それにはまず、大仙市に暮らす私自身が大仙市の魅力を知らなければなりません。今回の研修をきっかけとして、今まで漠然としか知らなかった大仙市の魅力を再発見し、発信していきたいです。そして、この活動を通して、ふるさと大仙市に誇りをもつとともに、ふるさとを守り、さらに発展させていくためにはどうすればよいかを、オーストラリアの魅力とその発信の仕方を比較しながら、大仙市にも生かせることを考えていきたいと思えます。そのことが、大仙市がふるさとの私たちにとっては「住んでいたいふるさと」に、それ以外に人々にとっては「住んでみたいふるさと」に繋がっていくことを願っています。

## III 研究テーマについての予想、検証方法、調べた内容、考察

### 1 予想

大仙市・オーストラリアに住む魅力について予想してみました。

#### (1) 「住んでいたいふるさと」について

…それぞれの地域において、自然環境を生かし、住みよくするための地域・まちづくりをしているのではないかな。

#### (2) 「住んでみたいふるさと」について

…それぞれの地域において、魅力を発信し、伝統・文化・生活を体験できる場所作りをしているのではないかな。

## 2 検証方法

次のことについて比較することにしました。

- (1) 大仙市の「住んでいたい・住んでみたいふるさと」にする取組について
- (2) オーストラリアの「住んでいたい・住んでみたいふるさと」と思う魅力について

## 3 調べた内容

- (1) ①大仙市の「住んでいたいふるさと」にする取組について

- ・「定住自立圏構想」における大仙市の方針について

将来的な人口減少も予想される中、大仙市では「住んでいたいふるさと」であり続けるためにどんな取組をしているか、市のHPを調べてみました。その中で、総務省の提唱する「定住自立圏構想」に対する取組として、大仙市では「安心して暮らせる地域」「人が活き・集うような魅力ある地域」を目指すために、中心都市宣言を平成 27 年 9 月に行い、その後「大仙市定住自立圏形成方針」を策定していたことを知りました。

方針の内容を見てみると「生活機能の強化」には、教育の充実に関する項目もあり、私たち中学生にも関係のある取組がたくさんありました。その他、「結びつきやネットワークの強化」「圏域マネジメント能力の強化」に関して具体的に記されていました。これからは大仙市に住み続けたいと思う構想が、市の方針としてあったことを初めて知りました。

- ②「住んでみたいふるさと」にする取組について

- ・「まちづくり課」、 「観光交流課」 の設置

大仙市役所には「まちづくり課」という課があり、そこでは大仙市の魅力を「田舎の暮らし方ブログ」で発信したり、移住相談会を行ったりして大仙市に住んでもらうための取組を他にもたくさん行っていることを知りました。

また、「観光交流課」では、大仙市の観光PR映像を製作したり、「大仙市ふるさとフェア」を都内や県内で開催して大仙市の魅力を直接PRしたり、海外向けWeb動画「LOOK UP」をYou Tubeチャンネルで公開したりと様々な方法で大仙市の魅力を発信していることが分かりました。

- (2) ①オーストラリアの「住んでいたいふるさと」と思う魅力について

- ・住んでいたいふるさとの魅力について交流した方々にインタビューしたところ、一番の魅力はオーストラリアの自然の美しい景色と、住んでいる人々が自由で明るく、開放的でフレンドリーなことだという答えが多く返ってきました。そして、この魅力を受け継いでいきたいと考えていることが分かりました。

- ②「住んでみたいふるさと」と思う魅力について

- ・実際にオーストラリアを訪れてみて「住んでみたい」魅力として感じたのは、ファームステイ先のホストファミリーがとても親切で、充実した生活を送ることができたことです。また、自然や文化をととても大切にしている、誇りをもって受け継いでいこうとしていると感じました。

## 4 考察

- ・ 1－(1)「住んでいたい」についての比較をするつもりでしたが、どちらもそれぞれに魅力的な地域であるので、単純に比較するのは難しいと思いました。季節は逆であっても、春夏秋冬それぞれのよさや観光資源、美味しい食べ物があり、その土地に合った形で受け継がれてきているのだということが分かりました。私は今回、オーストラリアの夏に行きましたが、他の季節にもぜひ行ってみたいと思いました。また、オーストラリアの人たちから感じたのは、現地の人の圧倒的な「明るさ」でした。私が大仙市の人たちのよさと感じている「優しさ」と、どこか通じている部分があると思います。住みよいつ思えるような人のよさのためには、「明るさ」と「優しさ」のどちらもとても大事なことだと考えました。
- ・ 1－(2)「住んでみたい」についての比較については、予想どおり、どちらの地域もそれぞれの地域のよさを様々な形で発信していることが分かりました。ただ、私がオーストラリアで感じたことは、それぞれの地域の魅力やよさを体験できる場をたくさんもつことの大切さです。「百聞は一見に如かず」の言葉どおり、大仙市にも実際に体験することによって魅力を感じてもらえることがたくさんあるかもしれないと強く感じました。また、ケアンズの街はたくさんの魅力であふれていました。その魅力、伝統文化を若い人が受け継いで次の世代へ伝えていくことも大切だと考えました。併せて、私たちのような、若い世代が大仙市の伝統文化をしっかりと受け継ぐ必要性和重要性も合わせて感じました。

## Ⅳ エピソード

### 1 ファームステイ（三日間）

私は Warren さん、Anne さんのお宅で過ごしました。二人とも日本が大好きで、とても優しい方々でした。毎日の料理はとてもおいしく、特に Warren さんの家で飼っているオーギービーフの味は一番でした。毎日、ドライブに連れて行ってきて、外の美しい景色に感動しました。バーベキュー、ショッピング、観光、現地の人との交流など、三日間、た



お世話になったファームステイ先の Warren さんと

くさんのオーストラリアの魅力に触れることができました。現地の人の優しさ、楽しい心、自然と調和した景色が魅力の一部だと思います。私にとって忘れられない三日間でした。

### 2 オーギーキッズとの交流・土ボタル観察

オーギーキッズとの交流では、小さい子どもも多く、みんなで遊んだり、ダンスをしたりして交流を深めました。「U. S. A.」をみんなで踊った時は楽しかったし、二人羽織をキッズに体験してもらった時は、日本の文化を知ってもらえるよい機会になりました。キッズと話した時は、J-Pop やジブリの話で盛り上がりました。その後は熱帯雨林に生息する土ボタルを見ました。青白く輝く土ボタルは、神秘的でした。この日の夜は、星もきれいで南十字星も見え、空一面が星で輝いていて感動しました。



オーギーキッズとの交流

### 3 キュランダ鉄道・動物園・アボリジニ文化体験

キュランダ鉄道の通る道は、ドリームタイムの伝説に登場する「ニシキヘビ」の形をした道でした。自然の魅力を生かした観光は、圧巻でした。

動物園では、コアラを抱っこして記念写真を撮りました。コアラはとてもかわいかったのですが、現在コアラの抱っこはオーストラリアでしかできないことを初めて知って、貴重な体験でした。



アボリジニ文化体験

アボリジニの文化体験は、ブーメランを投げたり、ショーを見たりしました。実際に体験すると文化の魅力がより伝わってきました。文化の魅力を伝えるには、実際に手で触れたり、見たり、積極的に体験することで新たな魅力に気付くことができると思いました。恥ずかしがらずに、楽しく体験することが大切なんだと考えました。



キュランダ鉄道の景色

### 4 グリーン島の見学

グリーン島とは、グレートバリアリーフの数あるコーラルケインの中で、唯一島内に熱帯雨林がある島です。私は、グラスボートに乗ってたくさんの魚やサンゴを見ました。海の色は透き通っていて、とても美しかったです。



グラスボートからの海

### 5 オーストラリアで活躍する日本人へのインタビュー

4人の日本人にインタビューしました。

Q. 日本の文化を現地の人に伝えるとき、気を付けていることは何ですか。

A. 英語、日本語どちらも使っています。→コミュニケーションがとれるから。

Q. 現地の方言、英語に慣れるには？

A. 最初の一年は辞書を常に持っていました。方言は今でも慣れません。(笑)

Q. オーストラリアの一番の魅力は？

A. たくさんあるけれど、一番はオーストラリアの人はみんな楽しくて優しいこと。日本人だと少しかたいイメージがあるかな。

## V 海外研修を終えて

今回の研修は、たくさんの魅力を発見し、素晴らしい経験をする事ができた九日間でした。日本と全く違う環境で過ごしましたが、いろいろな面で自立する事ができ、そして自分の海外への視野を大きく広げることができました。

英語に関しては、話すのには少し勇気が必要でしたが、相手に自分の言いたいことが伝わった時の「達成感」を、たくさんの場で感じました。英語が更に好きになりました。この気持ちを大切に、今回学んだことを今後の生活に生かしたいです。

最後に、この研修に参加する機会を与えてくださった教育委員会の皆様と先生方、そして研修への参加を勧めてくれた両親に深く感謝したいです。本当にありがとうございました。

# オーストラリア海外研修を終えて

No. 11 平和中学校 板垣 朱音

## I はじめに

このオーストラリア海外研修に参加しようとしたきっかけは二つあります。一つ目は、オーストラリアの言語や文化に興味があったからです。以前、テレビでオーストラリアの街の様子や建物、人々を見たことがあります。その時に、日本とは違う風景や街並み、透き通った青い海が広がっていると感じました。また、人種の違いも印象的でした。私は、実際にオーストラリアを訪れてみて、自分の目や耳、肌で日本との違いを感じ取り、様々比較したり、また、逆に日本の文化を少しでも伝えたりしてみたいと思うようになりました。

二つ目は、自分の英語力がどこまで通用するのか試してみたいと思ったからです。普段の授業で、英語に関するたくさんのことを学んでいます。しかし、英語の時間が終わると日本語を話す環境になってしまうので、いつも英語でコミュニケーションを図るしかないオーストラリアで過ごしてみること、英語をコミュニケーションの手段として活用できるのではないかと思いました。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

『大仙市を世界にPRするためには？』

### 2 設定理由

私たちが暮らす大仙市では「観光客が少ない」ということが課題とされています。しかし大仙市には、私もまだ行ったことのない観光地や、普段住んでいるとそのよさに気付いていない観光地となり得る場所がたくさんあると思います。このような観光地をどのようにPRしていけばよいか、また「大仙市にたくさんの人が訪れるにはどうすればよいか」と考えました。そこで、テレビでもよく目にするオーストラリアは観光客が多いと思ったので、訪問先のよいところを大仙市にも取り入れることはできないかと考え、このテーマを設定しました。

## III 研究テーマについての予想、検証方法、調べた内容、考察

### 1 予想

- 幅広い年代が興味をもてる大仙市の観光地や観光地になり得る場所について、メディアなどを使い大仙市をPRできるのではないか。
- 世界の人と積極的にコミュニケーションを図って、観光地のよさを直接伝えていくことが大仙市の活性化に繋がるのではないか。

### 2 検証方法

- (1) 知っている日本の場所や、その場所を知っている理由を質問する。その中で、大仙市のこ

とをPRできるヒントがないか考える。

- (2) ホストファミリーや現地で活躍する日本人の方々に、オーストラリアで魅力を感じる観光地や日本人を案内したい場所、その理由について質問する。

### 3 調べた内容

《ホストマザー Tracy Smith さん》への質問

Q What sightseeing spot do you know in Japan?

A Okinawa Aquarium.

まず、ホストマザーTracy さんが知っている日本の観光地を尋ねてみました。すると、沖縄の水族館を知っているという答えが返ってきました。

Q Why do you know that?

A A Japanese student gave me a book from the aquarium.

その理由を Tracy さんに尋ねてみると、以前ホストファミリーで受け入れたことがある高校生が沖縄出身で、その水族館に関する資料を見せてもらったことがあるからというものでした。

この他にもたくさんの質問をしました。それらのことから、私はインターネット等のメディアを使って発信する方法がいちばん速く、有効的だと考えていましたが、それだけではなく、人と人が実際にコミュニケーションを図り、伝えていくことの大切さに気付かされました。

《海外で活躍する日本人の方々》への質問

Q オーストラリアと日本との違いは何ですか。

A 日本は、顔の表情や仕草などから察する文化だが、オーストラリアは、はっきりと自分の言葉で伝えることを大切にしている。

Q オーストラリアへの観光客が多いのはなぜだと思いますか。

A 日本は狭いところで時間に追われ生活している感じがするが、オーストラリアは国土が広く自然も多く、ゆったりと時間を過ごすことができるからだと思う。

Q オーストラリアに住んでみて、改めて感じた日本の魅力は何ですか。

A 日本人はとても親切。サービス業のレベルが高く、お店などの対応が丁寧。また、仕事に関して一生懸命なところ。

このことから、自然の豊かさは大仙市も似ている点だと思うので、建物だけではなく大仙市の全ての場所や風景が観光地としてなり得ると思いました。

### 4 考察

まず、私がオーストラリアを訪問して感じた日本との違いは、店員さんとの関わり方でした。Tracy さんにスーパーに連れて行ってもらったときに、店員さんが Tracy さんと笑顔で話しながら袋に商品をまとめてくれていたことがとても印象的でした。日本のスーパーのレジは、スピード重視でいかに素早く仕事をこなすかが大切にされていて、会話をすることはまずありません。でも、ケアンズの人々は、日常生活から人と人とのつながりを大切にしていると感じました。

Tracy さんや現地で活躍している日本人の方々に質問して感じたことは、Tracy さんがオーストラリアについて話しているときは、いつも楽しそうで笑顔だということです。自分の国のことを心から好きでいるということが伝わってきました。自分の国のことを好きでいるということは、たくさんの人たちに、自信をもってアピールできることにつながると思います。そして、その思いが、観光地とともに世界の人々に広まっていくのではないかと考えました。また、現地で活躍している日本人の方々にインタビューしてみて教えられたことは、地域の特徴を生かすということです。大仙市も何か大きな建物や施設を増やして観光客を呼びこむのではなく、緑豊かな大自然を生かしていけばよいのではないかと思います。さらに、積極的にコミュニケーションを図ることもとても大切だと感じました。以前、秋田県人は、コミュニケーションを図ることが苦手だと聞いたことがあります。今回の研修で「コミュニケーション」を図ることの大切さを学びました。私はこの研修を生かし、様々な人々と積極的に話せる人になりたいと思いました。自分が笑顔でいると相手も笑顔になり、それがコミュニケーションを図るきっかけにも繋がります。このようなちょっとした心がけが観光客を増やす工夫の一つなのではないかと思います。これから先、大仙市が自然を生かした笑顔あふれる観光地になってほしいと思います。



大自然の中のキュランダ鉄道

## IV エピソード

### 1 オージーキッズとの交流

初めはあまり積極的に話しかけることができませんでしたが、一緒にご飯を食べたり、体を動かしたりしているうちに自然と仲よくなることができました。いきなり「僕、日本語話せるよ」と言われ、とても驚きました。ダンスは振り付けを覚えるのが難しかったですが、みんなで楽しみながら交流できました。また、私たちの出し物「U・S・A」や「二人羽織」などを通して、大変盛り上がりました。



オージーキッズと一緒に活動

### 2 毛筆色紙「感謝」をプレゼント

私は習字が得意なので、「感謝」と筆で書いた色紙をホストマザー Tracy さんにプレゼントしました。テレビの前に飾ってくれたので、とてもうれしかったです。また、日本から習字の道具も持っていったので、Tracy さんと一緒に書きました。「It's very difficult.」と言いながら楽しんでチャレンジしてくれました。最後には、桜が好きだと言っていたので、私が漢字で「桜」と書いたら、「It's great!」と言って喜んでくれました。



プレゼントした色紙「感謝」

### 3 ファームステイ先で

三日間の朝食は主に、パン、オムレツ、ハッシュドポテト、トマト、パパイヤでした。夕食は、オーギービーフやパスタ、カレーライスなど、どれも豪華なものばかりでした。Tracy さんが作ってくれるご飯はいつもおいしかったです。また、オーストラリアのスイカは、日本よりも大きく、種がありませんでした。とても甘くておいしかったです。初日の昼食で、私たちが日本から持参した「そうめん」を調理しました。ご馳走したら「Delicious!」と言って、お箸を使って食べてくれました。



みんなで調理した「そうめん」



大牧場で仔牛にミルクをあげました

Tracy さんは、連日いろいろな楽しい場所に車で連れて行ってくれました。海のきれいなビーチや森林公園レインフォレストなどよい思い出になりました。その中でも印象に残っているのは、Tracy さんのおじさんの牧場で、牛にミルクをあげたことです。牧場は、向こうの地平線が見えるほど広くて、驚きました。牧場の広さを体感したり、ミルクをあげたりなどして、貴重な経験をすることができました。

### V 海外研修を終えて

今回の研修で私が学んだことは、挑戦してみるということです。初めてお会いしたとき、ホストマザーTracy さんに日本のことを紹介することを少し戸惑ってしまいました。でも、自分の知っている単語を並べて積極的に伝えようとしてみると、思っている以上に通じるものだと思いました。伝えたいことが通じたときは、とてもうれしかったです。

初めて行った場所で、上手に話すことができない英語を使うのは少し緊張しましたが、何事もまずは「言うてみる」、「やってみる」というチャレンジ精神が大切だと思いました。今回の研修に温かく送り出してくれた両親、また私たちのことを最後まで支えてくれた先生方やスタッフの方々、本当にありがとうございました。

ホストマザーTracy さんと一緒



初めて抱っこしたコアラ



Thank you Australia!

# オーストラリアレポート

No.12 平和中学校 鈴木 理子

## I はじめに

私がこの研修に参加した理由は、ALTの先生から外国の生活や文化について教えていただいたり、本を読んだりしているうちに、もっと外国の文化や暮らしについて知りたいと強く思ったからです。また、自分の英語力を試しながら、積極性とコミュニケーション能力を身に付けるよい機会になると思い、参加しました。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

『大仙市で暮らす人を増やすには？』

### 2 設定理由

大仙市は今、人口が減少するとともに、若者も市外へ流出しており、少子高齢化が問題となっています。また、大仙市を訪れる観光客も少ないのが現状です。毎年8月に大曲で行われる全国花火競技大会には、様々な地域からたくさんの方が集まり、盛り上がりを見せます。しかしそれは、観光にとどまり、定住することにはつながりません。

そこで、大仙市以外の地域の人に大仙市の魅力を知ってもらい、定住する人を増やすための取組を考えてみました。

## III 研究テーマについての予想、検証方法、調べた内容、考察

### 1 予想

オーストラリアという国は、自然豊かで観光地というイメージが強く、活気のある町という印象があった。また、観光客も長期滞在型が多く、その結果、定住につながるのではないかと予想した。

### 2 検証方法

- (1) 大仙市とケアンズの人口を比較する。
- (2) ホストマザーや現地で活躍する日本人にアンケートやインタビューをする。  
(現地の人々の暮らしの観察や観光地の調査をする。)

### 3 検証結果

#### (1) 大仙市とケアンズの人口を比較

	人 口	面 積	1 km <sup>2</sup> あたりの人口
大 仙 市	81, 734 人	866. 8 km <sup>2</sup>	約 94 人
ケアンズ	146, 800 人	488. 1 km <sup>2</sup>	約 301 人

#### (2) ホストマザーへのアンケート

**Q: Do you like Australia?** (あなたはオーストラリアが好きですか?)

A:大好きです!それは気候がよく暮らしやすいからです。

また、海や山、熱帯雨林や砂漠など多様な自然があるからです。

**Q: Is Australia livable?** (オーストラリアは暮らしやすいですか?)

A:とても暮らしやすいです!オーストラリアの人々は、皆、フレンドリーで親切です。

緊急事態のときは、すぐに駆け付け助けてくれます。そのため、集中して仕事に取り組むことができ、十分な収入を得ることができます。

また、自然を利用した農業や家畜等で暮らすこともできます。とても恵まれていると思います。

#### (3) 現地で活躍する日本人へのインタビュー

##### ・太田 祐さん

**Q:地元で就職する人はどれくらいいますか?**

A:日本人より多いと思います。オーストラリアには、農業や観光業などたくさんの職業があります。職人のような専門的な技術を生かして働く人も多く、その人たちへの評価も非常に高いです。また、大学に進学する人は少ないです。ちなみに、オーストラリアにある大学は名門校ばかりです。

##### ・マッカーシー 麻紀さん

**Q:ケアンズには地元の人が集まるイベントのようなものはありますか?**

A:たくさんあります。私は東日本大震災後、毎年寄付金集めをしていて、そのチャリティイベントを開催していますが、積極的に参加してくれる人が多いです。その他にもたくさんのイベントがあります。

### 4 考察・まとめ

検証結果やファームステイを経験して、観光だけに力を入れても市全体の人口は増えないことが分かりました。

オーストラリアの自然を生かした観光スポットはたくさんあり、観光客向けのガイドや看板が多くありましたが、観光客よりも地元の人たちでにぎわっている町が印象的でした。また、町から少し離れたところでは、家畜や農作物を育て、自給自足に似た生活もありました。どちらにも共通していることは、そこに住む人たちは、自分の生活や地域、文化に誇りをもって暮らしているということです。

私の予想では、観光業に力を入れることで人口が増えると考えていましたが、そうではなく、そこに住む人たちが、地域や文化に誇りを持ち、自分たちで暮らしをつくる楽しさを感じることが大切であると気がきました。

大仙市としての私の最終目標は、『人口を増やす』ことなので、まずは、私たちが大仙市のよいところを発見し、それを発信していきたいと思います。その小さな発信の積み重ねが、大仙市の活気につながり、観光客から定住者へつながるのではないかと考えました。

## Ⅳ エピソード

### 1 ファームステイ！

ファームステイ先では、ホストマザーの Tracy さんがいつもおいしいご飯を作ってくれました。また、Tracy さんの家の羊や鶏の飼育の手伝いもしました。そのほか、近くの農場にも行き、ケアンズの自然をたくさん満喫することができました。

Tracy さんの優しい雰囲気安心して積極的に会話を楽しむことができました。

1 日目の昼食には、みんなでそうめんを作りました。ゆであがったそうめんを洗う水が十分になく、何度も Tracy さんに水を運ばせてしまい、水を大切に使うオーストラリアには向いていないメニューだったことが分かりました。少ししょっぱいそうめんの味は忘れられません。



Tracy さん



ファームステイでのたくさんの思い出



### 2 オージーキッズとの交流！

オージーキッズは、積極的な子どもが多く、すぐに仲よくなることができました。日本で人気の『U.S.A』をみんなで踊ったり、『二人羽織』を披露したとき、とても喜んでくれた表情が忘れられません。



オージーキッズ

### 3 世界遺産

世界遺産であるグレート・バリア・リーフのグリーン島へ行き、シュノーケリングを体験しました。そこは、とてもきれいな海でした。世界遺産を守るためにたくさんの人がかかわり、美しいサンゴ礁や魚たちが大切に保護されていました。



### 4 動物園で記念写真！

少し動物が苦手な私ですが、せっかくの機会なので、思いきってコアラやワラビーと写真を撮りました。野生のカンガルーや放し飼いにしているワラビーに触れ、ドキドキしていました。



ワラビーと一緒に記念撮影

## V 海外研修を終えて

この研修に参加し、オーストラリアならではの体験ができたことはもちろん、たくさんの人と出会い交流し、自分の英語力を試すことができました。また、コミュニケーションの重要性や自分の意思を相手に伝えることの大切さも同時に知ることができました。

この貴重な研修を無事終えられたのは、私たちの安全を見守ってくださった引率の先生、添乗員の古村さん、たくさんサポートをして送り出してくださった学校の先生、そして、私の思いを理解し応援してくれた家族のおかげだと思います。本当にありがとうございました。



# オーストラリアレポート

No.13 西仙北中学校 菊地 優希

## I はじめに

私がこの研修に応募した理由は三つあります。一つ目は、授業や英語検定の3級取得(1次合格)で身に付けた自分の英語が通用するのか試したかったからです。二つ目は、通訳などの英語を生かした仕事に興味があったからです。三つ目は、私は人と話すのが苦手なので、コミュニケーション力を付けるよい機会にしたいと思ったからです。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ「観光客を増やすためにはどうすべきか？」

### 2 設定理由

私たちが暮らす大仙市には、たくさんの観光地があり、それぞれに魅力があります。大仙市のいろいろな観光地について観光客の推移を調べたり、オーストラリアの観光地を実際に訪れて調べたりすることで、双方の観光資源の魅力をまとめ、観光客を増やすための手立てを考えようと思ひ、この研究テーマにしました。

## III 研究テーマについての予想、検証方法、調べた内容、考察

### 1 予想 大仙市の観光客数は、年々減少している。

オーストラリアの観光地ツアーは、大規模で充実している。

### 2 検証方法

- (1) 大仙市の主な観光地と観光客の推移について調べる。
- (2) オーストラリアの観光地を訪問したときの様子についてまとめる。
- (3) (1)と(2)をまとめる。
- (4) 研究テーマに迫る「自分の提案」をする。

### 3 調べた内容

#### (1) 大仙市の主な観光地と観光客の推移について

資料：秋田県観光統計から、過去3年間分の大仙市の観光客の推移をまとめると次のようになります。

#### ○ 主要観光行事への来客数

単位：千人

年度	大曲の花火	神岡南外花火大会	刈和野大綱引き	ドンパンまつり
平成26年度	720	14	7	40
平成27年度	710	15	7	40
平成28年度	740	11	8	45

#### ○ 地域別観光客数の推移

単位：千人

年度	大曲	神岡	西仙北	中仙	協和	南外	仙北	太田
平成26年度	1,105	254	119	291	408	41	152	245
平成27年度	1,085	268	118	301	398	42	166	235
平成28年度	1,138	274	114	318	392	41	160	231

## (2) オーストラリアの観光地を訪問したときの様子について

オーストラリアには、コアラやカンガルーなどの動物、砂漠、森林、滝など自然をアピールする観光地が多く、そのスケールが大きいことを現地で過ごして感じました。特に、レインフォレストेशन自然公園を訪問した際は、その思いを強くしました。この自然公園では、「IV エピソード」でも紹介するアボリジニについての体験ができる施設があり、私たちを含め、外国人観光客にとっても人気がありました。また、他の観光地の代表例として挙げられるのは、右写真のグリーン島やキュランダ鉄道です。他には、オーストラリアデーやダーウィンフェスティバルなどの祭りがあるということを知りました。

食事は、ピザやステーキが多く、和食が食べたいという気持ちが日に日に強くなりました。

また、オーストラリアの気候は乾燥帯ということもあり、研修の時は夏で、暑かったものの、日本と違って湿度は高くないと感じました。



グリーン島



キュランダ鉄道

## (3) まとめ

自分の予想に反して、行事や地域の年度ごとの比較では、多少の増減はあるものの、安定した観光客数が確保できていました。このことから、大仙市は花火、祭り、歴史的な寺や神社、温泉やスキー場の施設など、観光客の様々なニーズに応える観光資源があることが分かりました。大仙市は観光に力を入れていることも分かりました。

また、オーストラリアは建国(1901. 1. 1)からの歴史が浅く、歴史的建造物や伝統文化は少なかったです。しかし、観光地として知名度が高く、大自然を観光資源とした大規模な観光施設により、多くの観光客を集めることができていました。また、予想どおり、それらを組み合わせたツアーの充実が図られていることが分かりました。

以上のことから、私は、オーストラリアと大仙市を比較して、観光客を増やすための大仙市の観光資源(ストロングポイント)は、以下の内容であると考えました。

◎郷土料理 ◎歴史的・文化的な建物や行事 ◎季節(四季) ◎地域に根ざした衣食住など

## (4) 研究テーマ 「観光客を増やすためにはどうすべきか？」についての私の提案

まとめの◎から、私の研究テーマの「観光客を増やすためにはどうすべきか？」について自分の考えをまとめ、次のように提案したいと思います。

提案1 ; 「秋田県の郷土料理」を、祭りで観光客に振る舞ったり、売ったりしてもっと広めればよい。

提案2 ; 歴史を伝える案内人(ガイド)を育て、大仙市の神社やお寺、温泉の魅力を伝えればよい。

提案3 ; 秋田県は雪が降るので、冬のツアーを組み、スキー場や温泉、川を渡る梵天や刈和野大綱引きなどの冬の祭りやイベントをもっとPRすればよい。

提案4 ; 大仙市の桜や紅葉など四季の美しさや繊細な味付けで種類も多い和食のすばらしさをインターネットなどで世界中に発信すればいい。

## IV エピソード

### 1 アボリジニと初めての体験

#### 【ブーメラン体験】

ブーメランを投げてみたら、自分が思った方向にうまく戻ってこなくて、思ったよりも難しかったです。

#### 【槍投げ見学】

道具を使う場合と使わない場合では、使ったときの方が飛距離は長かったです。

#### 【ディジュリドゥ（楽器）】

ディジュリドゥは、シロアリに食べられた穴が開いたユーカリの木で出来た楽器で、今まで聞いたことがない不思議な音色を奏でていました。動物の動きや自然の音を表現しており、伝統的な儀式に使われているそうです。その音色に合わせたダンスも披露してくれました。ダンスは足と手の動きが独特で、見ていて新鮮でした。



アボリジニ

### 2 ファームステイでの体験！！

#### 【農場体験】

ロードバイクに乗せてもらって農場を走りました。アップダウンが激しいコースで、落ちそうなくらい迫力があって楽しかったです。また、この農場ではたくさんの牛を飼育していました。他にも、ヤギやニワトリなどの色々な動物を飼育していて、餌やりを体験しました。



ファームステイの農場の牛

#### 【ドライブ】

滝を見学に行った時は、水しぶきが激しくとても冷たかったです。ミラミラの滝周辺にいる鳥は人をつついてくる危ない鳥だということを教えてもらいました。見晴らしのよい丘に連れて行ってもらい、眼下に広がる景色について説明してもらいました。資料館では、オーストラリアに生息する動物について説明を聞きました。また、森には見たことがない植物や木があり、「世界には、まだまだ自分の見たことがない植物があるんだなあ。」とびっくりしました。

スーパーマーケットを訪れたときは、見たことのない果物や飲み物があり、そのサイズが大きいことにとっても驚きました。



ミラミラの滝



見晴らしのよい丘からの眺め



カーテンフィグツリー

### 3 現地で活躍する日本人にインタビューしました！

オーストラリアで働く4人の方にインタビューしました。このインタビューで印象に残ったことを紹介します。

Q オーストラリアで学んだことは何ですか？

A メカニックの仕事をしていますが、考えるときに自分の常識にとらわれず、臨機応変に行動することが大事だということです。

Q オーストラリアで困ったことは何ですか？

A 自分の思いを相手にアピールしなければいけないことです。

Q オーストラリアで驚いたことは何ですか？

A オーストラリアには色々な国の人が出て、文化も違うため、自分の常識が通用しないことに驚きました。しかし、他人と違うことが当たり前なので、差別されることがないことはとてもよいことだと思います。

インタビューをしてみて、私も常識にとらわれず柔軟に行動して、自分のしたいことをアピールしていくことが大事だと思いました。また、誰に対しても差別せずに一人の人間として尊重して接したいと思いました。

## V 海外研修を終えて

今回の研修では、英語をそれほど話せなくても、ジェスチャーや表情などで自分がしたいことをアピールすれば伝わったことが嬉しかったです。また、オーストラリア人はみんながフレンドリーで、いつも笑顔で朗らかな人柄だったので、一緒にいると自分も笑顔になれて楽しく過ごすことができました。オーストラリアで過ごしたことで、日本のよさにも気付くことができました。例えば、日本の方が店での接客は丁寧なことや、料理の種類が多くておいしいことが改めて分かりました。

また、普段の生活では経験できない農場での体験や、観光地での思い出もたくさんできました。オーギーキッズとの交流で、ダンスや唄を一緒に歌ったり、日本の遊びである二人羽織や流行曲に合わせたダンスをしたりと楽しく過ごすことができました。他の学校の人とも「すごろく」などのゲームをしたり、たくさん話をしたりすることで有意義な時間を過ごすことができました。

この体験をたくさんの人に伝えたいです。そして、今回の体験を通して、今後ますます様々なことに挑戦し、積極的に行動することを心がけたいと思いました。

このような機会をもたせてくれた家族や教育委員会の方々、学校の先生に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

# オーストラリア研修で学んだこと

No. 14 西仙北中学校 佐々木 桃子

## I はじめに

私は将来、医療関係の仕事に就き、世界の人々の命や健康を守ることができる人になりたいと思っています。世界の人々と関わるためには、英語のコミュニケーション能力を高める必要があります。自分の将来に役立てるため、オーストラリアでの生活で自分の英語の力を試したいと思い、この研修に参加しました。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

『大仙市の伝統行事と魅力（刈和野の大綱引き）を、  
日本・世界に広めるためにできることは何か？』

### 2 設定理由

私たちが暮らす大仙市には、「大曲の花火」を代表とするたくさんの行事があります。私が住んでいる西仙北にも「刈和野の大綱引き」という古くから伝わる行事があります。今回私は、大仙市にあるたくさんの行事の中から、私の地域の伝統行事である「刈和野の大綱引き」とアボリジニ体験を比較し、オーストラリアでは、どのように自分の地域の魅力を自国や世界の人々に伝え、広めているのかを学び、この研究テーマについて考えたいと思いました。

## III 研究テーマについての予想、検証方法、調べた内容、考察

### 1 予想

**オーストラリアの地域の魅力の広め方の工夫について予想しました。**

- ・様々な国に対応できるパンフレットがある。
- ・地域の売り出しポイントがはっきりしている。

### 2 検証方法

**次のことを通して、研究テーマについて調べていくことにしました。**

- (1) 刈和野の大綱引きとアボリジニ体験についてまとめる。
- (2) その比較を通して、共通点と相違点を見つける。
- (3) 「現地の日本人へのインタビュー」と「ホストファミリーとの関わりから」という二つの視点から研究テーマに迫る。

### 3 調べた内容

#### (1) 刈和野の大綱引きとアボリジニ体験について

自分の経験や体験で知っていることや体験を通して分かったこと、それに加えインターネットなどの情報を分類・整理して、次のように表にまとめました。

分類	刈和野の大綱引きについて	アボリジニ体験について
はじまりと場所	1500年頃から 刈和野大町通り	1998年から レインフォレステーション・ネイチャーパーク(キュランダ)
時期	毎年	毎年
体験	一月から二月のみ	年間通じてできる
グッズ	赤いハチマキ 黄色いハチマキ	顔へのペイント
限定の食べ物	ない	ある(独特の食文化)
宿泊施設	少ない	ある
情報施設	ない	ある
交通面(バス)	日中は少ない 夜はない	一日中ある
特有のもの	ある(勝敗がつく、独特の掛け声)	ある(ダンス)

#### (2) 共通点と相違点

##### ○共通点

- ・古くからの歴史がある。
- ・グッズがあり、参加者も楽しめる工夫がされている。
- ・その地域、特有のものがある。



アボリジニ(オーストラリアの先住民)

##### ●相違点 (刈和野の大綱引きには)

- ・体験できる期間が限定されている。
- ・地域限定の食べ物がない。
- ・宿泊施設が少ない。
- ・情報施設が分かりにくい。
- ・交通に制限がある。
- ・季節が限定されている。



資料1: アボリジニの看板

#### ◎ (1)と(2)の比較から

私はこの調査から、観光客を集めたり、様々な地域に広めたりするためには、それらの施設を集中させることが重要だと思いました。

右上の資料1のアボリジニの看板は、ミラミラの滝の近くにあります。その向い側にはオーストラリアの情報施設があり、動物の種類や歴史について学ぶことができます。観光スポット付近に観光客向けの施設が集中している工夫は、とても便利だと思いました。このことから、刈和野の大綱引きについて考えてみました。

刈和野の大綱引きをPRする施設は、大仙市役所西仙北支所、刈和野駅、駅前商店街と駅付近に集中しています。さらに綱引き会場へも徒歩で行くことができます。季節限定の綱引きですが、施設が集中していることをもっとアピールし、一年中綱引きが感じられるように、案内表示や看板、ポスターなど環境をいつも保っていくことが大切だと思いました。また、食べ物のことや情報施設の問題は、中学生と地域が協力すれば解決できそうに感じています。私の学校では、学校祭で地域の和菓子店とコラボした商品を販売しています。その商品を大綱バージョンとして限定販売すればよいと思いました。さらに、空き家を利用したHUBスペースで、中学生が綱引き案内人として観光客と触れ合う活動も経験しました。空き家の利用により、宿泊施設の不足が解消できる可能性もあると思いました。

### (3) - 1 現地で活躍する4人の日本人にインタビュー

Q：オーストラリアの魅力はどこですか。

A：大自然があるところ。人が大らかなところ。

Q：自分の行っている活動を広めるために何をしていますか。

A：イベントを開いたり、ウェブを利用したりしている。

Q：なぜ、自分の地域のために尽くすことができるのですか。

A：人のことを想えば負担ではないから。

生き物への感謝の気持ちを大切にしているから。

Q：地域の魅力を伝えるうえで、大切だと思うことは何ですか。

A：自分にとっての当たり前は、相手にとっての当たり前とは限らないから、注意しなければならないこと。

Q：日本人のよさはどこですか。

A：並び方（整列）、ゴミ拾い、説明の仕方が丁寧なところ。

伝統などの歴史が古いところ。

今回、インタビューをして分かった共通点があります。それは、みなさんが他の人のことを想って自分から行動をしているところです。きっと、活動を進めていく上で言語の壁や文化の違いなど、様々な苦難があったと思います。しかし、目標があるからこそ諦めず努力をし続けることができたのだと思います。私も掲げた目標に向かって、何があっても諦めずに努力を続けて、必ず達成させたいです。

### (3) - 2 ホストファミリーとの関わりから

私がホストファミリーに連れて行ってもらったところには、たくさんの観光客向けの工夫がありました。資料2のcheese factoryは、チーズだけではなくチョコレートも作っていました。



HUBスペースでの活動



資料2：cheese factory  
の看板牛

また、小さな農場が併設されていて、動物とも触れ合うことができます。写真のようなカラフルな牛の置物もありました。一緒に写真を撮ったり、触ったりもできます。工場としてだけでなく、たくさんの魅力と工夫があって楽しむことができました。このように農場がテーマパークのような複合施設になっていることも、宣伝効果があるし、お客さんが来る魅力の一つでもあると思いました。

資料3のカーテンフィグツリーは、何百年も前にできたもので、周りの木よりも存在感がありました。フィグは、イチジクという意味で、無数のイチジクの根が垂れた、巨大なイチジクの大木です。資料4のように、説明が書いてある看板があったので、とても分かりやすく知ることができました。



資料3：カーテンフィグツリー



資料4：ツリーの説明看板

#### 4 全体の考察(まとめ)

大仙市の魅力を伝えるには、まず私たちが大仙市についてよく知ることが大切だと思いました。自分の暮らしている地域のよさを自分で理解していないと、紹介することはできません。大仙市には「大仙ふるさと博士」という活動があります。ポイントを貯めることを目的とせず、自分の地域についてもっと知ろうとする意欲をもって、取り組むことが大切だと思いました。

また、西仙北や大曲には暮らしの中に大切な伝統行事がたくさんあります。しかし、伝統行事が近くにあっても「守るべき大切なもの」という意識が少なく、「あって当たり前なもの」と考えている人が多いのかもしれない。インタビューで学んだように、当たり前なものという意識をなくし、相手目線になって物事を考えていかなければなりません。そして、オーストラリアの人々のように、自分の地域と積極的に関わることができるようになりたいです。これからも続いていく伝統行事を盛り上げるために私たちができることは、自分たちが魅力とを感じるものを積極的にPRし、地域と関わりをもつことだと考えます。「当たり前」の中に隠れているかもしれない魅力を見出し、様々な工夫を凝らすことで、大仙市はもっと発展すると思います。たくさんの人々が地域を訪れる機会を生かし、全国に広めることができるように地域と協力をして、積極的にPRや工夫をしていきたいと思っています。

## IV エピソード

### 1 ファームステイ

私は、ROLFE さんのお宅にお世話になりました。初めに会った時は緊張して話すことができなかつたけれど、ホストマザーの Tania さんやホストファザーの Gregory さん、Abby さんの笑顔で、気持ちが楽になりました。また、Tania さんは連日いろいろなところに連れて行ってくださいました。私たちが日本文化の紹介と、プレゼントとして折り紙を作ると、Tania さんはとても喜んでくれて私も嬉しい気持ちになり、作ってよかったと心から思いました。

このファームステイを通して「ありがとう」を伝える大切さと、自分の気持ちを伝える重要性を学びました。怖がらずに恥ずかしがらずに気持ちを伝えることは日本でも同じことなので、些細なことでも感謝の気持ちを伝えるようにしたいと思います。



ホストマザーの Tania さん



ある日の朝食



ホームステイ先

### 2 ファームステイでの初体験！！

二日目にバギーに乗って家の周りをドライブしました。バギーに乗るのは初めてだったので、とても楽しく感じました。また、ホストマザーとの会話もでき、よい思い出になりました。敷地の仕切り方に工夫があり、動物のためにうまく土地を活用していると思いました。

## V 海外研修を終えて

オーストラリアでは、日本では学ぶことのできない貴重な体験をすることができました。

私にとって一番の収穫は、コミュニケーションがうまくなったことです。オーストラリアでは、「目を合わせること」「笑顔で話すこと」「小さなことにも感謝を忘れないこと」を心がけ、相手と接しました。これは、普段の生活でも大切にしていることですが、外国でもしっかり通用すると実感することができました。これからも、この三つを忘れずに人との会話を楽しみたいです。

オーストラリアに行く前までは、不安が大きかったけれど、行ってみると不安は吹き飛びとても楽しかったです。また、現地で働く日本人の方が自分の夢を叶えて、楽しそうに仕事をしている姿を見て、自分の夢を叶えたいという気持ちがより一層強くなりました。この研修を通して学んだことを糧に、自分の夢を叶えるための努力をしていきたいと思います。

支えてくださった多くの方々、私がたくさん学びを得ることができたのは、みなさんのおかげです。感謝しています。本当にありがとうございました。

# オーストラリアレポート

No.15 中仙中学校 藺藤 一颯

## I はじめに

2019年1月4日、いよいよ僕の海外研修が始まりました。以前からずっと、僕はこの日をとっても楽しみにしていました。「1日でも早くオーストラリアに行きたい!」という気持ちでいっぱい、出発日の前日は全く寝られないような状況でした。当日の大曲駅集合までの準備時間や移動時間がとても長く感じられました。その一方で、親や地元から離れるのがさみしいという気持ちもありました。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

『伝えたいことを確実に伝えるにはどうしたらよいだろうか?』

### 2 設定理由

僕がこのテーマを設定した理由は、普段、友達や先生方と会話をするとき、自分が伝えたいことがうまく伝えられなかったり、意図しないことが伝わったりということが時々あるからです。伝えたいことをしっかりと伝える、そして相手のことを理解するといった、よりよいコミュニケーションをとるために何かヒントになることはないか、と思い、このテーマを設定することにしました。

## III 研究テーマについての予想、検証方法、調べた内容、考察

### 1 予想

オーストラリアの人々は、日本人とは違うコミュニケーションのとり方をしているのではないだろうかと思いました。そして、そのコミュニケーションの方法の中に、自分が生かすことができるようなポイントが隠されているのではないかと予想しました。

### 2 検証方法

テーマについて、次の視点で確かめることにしました。

- ①身ぶり手ぶり（ジェスチャー等）の効果
- ②驚き、喜びなどの感情表現

この2つに着目し、オーストラリアの人々の様子を観察することにしました。

### 3 観察して分かったこと

- ・日本の人々のコミュニケーションのとり方について  
→主に言葉のみによる会話で、時々ジェスチャーを交える程度です。感情はあまり大げさに表現せずに、控えめに伝えることが多いように感じます。また、知らない人に対しては、敬語を遣って、ある程度距離を置いた話し方をしています。
- ・オーストラリアの人々のコミュニケーションのとり方について  
→いつも言葉とジェスチャーが混ざっていました。感情表現がとても豊かで、生き生きとした表情で会話をしていました。また、知らない人同士でも、お互い進んで明るくあいさつを交わしていました。

### 4 考察

オーストラリアの人々は、道ですれ違うとき、お互いに知らない人同士であっても、“Good day!”とか“Hello! How are you?”などと、積極的にコミュニケーションをとっていました。また、予想していたとおり、会話の中でジェスチャーを使って話す場面が多く見られました。ジェスチャーは、伝えたいことを確実に伝えるために重要なツールであることを改めて感じました。

日本では、お互いに初対面の場合、あまり積極的にコミュニケーションを求めない傾向があると思います。オーストラリアの人々の関わり方を見て、人と人との輪を広げていくために、自分から進んでコミュニケーションを求めていくことがいかに重要かということに気付きました。これらのことを意識し、今後のコミュニケーションに生かしていきたいと思いました。

## IV エピソード

### 1 生まれて初めて見た野生カンガルー

ホストマザーの Gladys さんの車でファームに向かっている途中に、急に車が止まり「あそこを見て！」と言われました。その方向に目を向けてみると、普段動物園でしか見ることのできないカンガルーが草原に立っていて、じっとこちらを見つめていました。撮影し終えて発車すると、車内で Gladys さんが「あなたたちはとってもラッキーね！！」と言ってくれ、とても嬉しかったです。この写真は生涯大切にしていきたいです。



【野生カンガルー】

### 2 ファームステイで感じた楽しさとスリル

僕たちはファームステイ初日、Gladys さんに「面白いものに乗せてあげる！」と言われ、乗ってみたそれがロードバイクでした。皆さんが想像するロードバイクの楽しさというのは、ゆっくりと草原を走りながら牛などを見ることではないでしょうか。僕も初めはそう思っ



【ロードバイクに乗っている様子】

ていました。想像では「割と安全なんだろう」と安心していました。しかし、実際乗ってみると、ベルトもつかまるところもなく、時速 40km 近くででこぼこした道を走るという、とてもスリルあふれるものでした。何度も振り落とされそうになりましたが、とても楽しく貴重な体験をすることができました。

### 3 オーストラリア在住の日本人にインタビューしました！

Q： オーストラリアの第一印象はどんなことですか？

A： 皆が明るく、誰に対しても公平だということです。

Q： 日本を恋しくなることはありますか？

A： あります。特に日本料理が恋しくなります。

Q： オーストラリアに来て驚いたことは何ですか？

A： 口で言わないことには、相手に何も伝わらないということです。

Q： 英語での好きなフレーズは何ですか？

A： Thank you.です。

## V 研修を終えて

今回、この研修に参加することができて本当によかったと感じています。自分にとって、初の海外旅行だったのでもちろん不安や緊張はありました。しかし、友達やホストファミリーと過ごす中で、その不安や緊張が次第に消えていきました。日本と全く違う異文化の中で生活することに慣れるまで少し時間はかかりましたが、一度慣れると現地の英語はすらすらと頭に入ってきました。緊張の解けた中で見たグリーン島とグレートバリアリーフの景色のすばらしさを僕は一生忘れることはないでしょう。そして今回の研修テーマについても無事に調査し終えることができました。この経験を、今後の生活に生かしていきたいと思います。また、研修テーマの他に目標としていた、「楽しく安全に、そして有意義な研修にする」ということも達成できました。今回の研修で得た経験を生かし、よりよい大仙市にすることができるよう、地元の一員として頑張ります。

最後になりますが、この研修に参加させてくれた母、また、僕たちの研修を楽しく安全なものにしてくれた先生方、そして共に楽しい時間を過ごした仲間感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました！



【グリーン島のビーチ】



【槍の説明をしているアボリジニ】

# Australia Report

No.16 協和中学校 工藤 夏津

## I はじめに

現地に着き、猛烈な暑さを感じた時、日本との違いをととても感じました。

私がこの研修に参加したいと思った理由は、日本と違う文化や環境、言語の違う土地に行ってみたいと思ったからです。

私は中学校に入る前、小学校の外国語活動の時間が嫌いでした。英語を聞いても、何を言っているのかが分からなかったからです。だから、中学校に入ってから、英語は嫌いなままだとその時は思っていました。しかし、英語の授業が始まると、自分が思っていたよりも楽しく、単語や文法も時間がかかりましたが覚えることができました。

今回、自分の英語がどのくらい通じるかについて、体験できるこの研修に参加できたことを、とても嬉しく思いました。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 『観光地を訪れる人を増やすにはどうしたらよいのか?』

### 2 設定理由

秋田県を訪れる人は増えてきていますが、大仙市を訪れる人を増やすためには何が必要で、どうすべきか。そう考えたとき、まず私は自分の住む協和地域と大仙市の他の地域を比べました。私の住む協和地域には、歴史ある建造物などがありますが、その魅力を広く、多くの人に知ってもらえているのか。『大曲の花火』などと比べると、知っている人も、訪れる人も、少ないと私は感じました。

それらを踏まえ、私はこのテーマを設定しました。

## III 検証方法と検証結果

### 1 検証方法

- (1) 「大仙市の観光地で行われている工夫」についてのリサーチ
- (2) 「オーストラリアの観光地などで行われている工夫」についてのリサーチ

## 2 検証結果

### 【大仙市の観光地で行われている工夫】

- (1) 新幹線の停車駅である大曲駅の『観光センター・グランポール』設置  
→観光パンフレット、観光案内、大仙市のお土産ショップ（花火グッズなど）  
駅周辺の発展（商店街やレストランなど）
- (2) 国指定名勝の『旧池田氏庭園弘田分家庭園』  
→グルメイベントの開催、紅葉のライトアップ、大仙市在住の方々による生演奏、など
- (3) 秋田県唯一の『能楽殿』  
→春の『薪能』、秋の『定期能』、衣装や面・鼓などの展示室  
民謡・踊り・茶会・短歌・俳句などの文化的催しの拠点としての利用、など  
地域の特色を生かした観光地作り

### 【オーストラリアの観光地などで行われている工夫】

- (1) 観光地での言語の違うアナウンス（環境保護の呼びかけなど）  
→キュランダ鉄道では、英語・中国語・日本語の三か国語
- (2) 様々な言語のパンフレットやガイドブックなど  
→レインフォレストステーション自然公園には、英語だけでなく、フランス語  
や韓国語などのパンフレット
- (3) グリーン島やケアンズ空港  
→一部の売店などに英語以外の言語を話せる店員がいる  
観光地の環境保護に対する地域の方の姿勢とその土地に住む方の協力

## 3 考察

オーストラリアの観光地は、キュランダ鉄道やグリーン島など、自然を生かしたものが多く感じました。そして、独自の植物や動物が生息しているため、環境保護に対する取組がとても徹底していると感じました。

また、先住民であるアボリジニの歴史ある文化をととても大切にしていると感じました。アボリジニの文化体験などができる施設があり、そこで先住民の方々が体験活動やショーなどを恥ずかしがらずに、楽しそうにやっていたところが、とても印象的でした。「自分たちの文化に誇りをもっているんだな」と感じました。

そして、オーストラリアには体験活動や見学のできる施設が多く、その魅力を感じやすいという工夫を感じました。

最後に、地域の方が自分の住む地域の観光地やイベントにととても詳しいということ、私はとてもすごいなと思いました。私は、地域活性化アイデアコンテストを学校で行ったとき、自分以外の班の発表を聞いて、私の知っていた協和地域の魅力はごく一部に過ぎなかったことや、自分の住む地域にもたくさんの魅力があることに気がきました。

今回の研修を通して、現地の方々は地域の観光地や自然の魅力に詳しいということに気がきました。ホストマザーに観光地や自然の質問をした時、ホストマザーは内容を詳しく丁寧に話してくれました。「自分の住む場所の魅力について詳しく知ること」は、大仙市を活性化させるために必要なことの一つだと感じました。

だから私は、私達自身が自分たちの住む大仙市を詳しく知り、その観光地の誇りをもって観光客に伝えることが大切だと思いました。

## IV エピソード

### 1 ファームステイ

私は、Tracy さんのお宅に滞在させていただきました。Tracy さんはとても親切で、桜が大好きでした。羊や鶏、アヒルを飼っていて、どの動物も Tracy さんに懐いていてとても可愛かったです。



Tracyさんと写真

バーベキューをしたり、ビーチに行ったり、買い物をしたり、羊に餌をやったり、たくさんの貴重な体験させていただきました。また、オーストラリアの自然やその歴史についても教えていただきました。私は、Tracy さんと日本の桜や伝統的な工芸品の話をするのがとても楽しかったです。

初めてのファームステイでしたが、Tracy さんやグループの皆のおかげで三日間楽しく過ごすことができました。

### 2 現地で活躍する日本人の方にインタビュー

#### (1) 印象に残っていることは？

自分の思いに賛同してくれる人が多いこと。

チャリティイベントに積極的に参加してくれ、子供から大人まで募金をしてくれること。  
(マッカーシー麻紀さん)

#### (2) オーストラリアで人気の日本の文化は？

アニメや漫画・桜や富士山などが人気。

アニメや漫画の影響で日本語を勉強する人もいる。  
(中村有佳さん)

(3) 働いて大変だと思うことは？

野生の動物を毎週お客さんに見せること。

常にお客さんに野生の動物を見せるのは、とても大変。 (太田裕さん)

(4) オーストラリアの自然のよさは？

スケールが大きいこと。実際に行ってみることで、自然の素晴らしさやスケールの大きさが分かり面白いこと。 (水野那由太さん)

## V 海外研修を終えて

私が今回の研修で、初対面の人と気軽に話すことは、慣れれば簡単なことだと気付きました。オーストラリアの人はとてもフレンドリーで親切で、Yes/Noをはっきりと相手に伝えていました。自分の思いや考えを恥ずかしがらずに相手に伝えることは、とても大切なことだと学びました。ファームステイ先やオージーキッズとの交流で、一緒に行った皆と協力して英語を話すことができ、相手の英語を聞き取ることもできてとてもよかったです。私の英語力はまだ低いのですが、伝えようと努力をすることが何よりも大事だと気付くことができました。これからは、研修で得たことを生かして自分の英語力を高めていきたいと思います。

今回の研修で大仙市の自然や環境のよさに気付きました。また、一緒に行った皆と仲良くなれたこと、「大切な思い出」は、絶対に忘れません。



# オーストラリア研修を終えて

No. 17 協和中学校 武藤 優

## I はじめに

私がこの研修に応募した理由は二つあります。一つ目は日本と違う文化や歴史を体験したいと思ったからです。日本との共通点や違う点を自分の肌で感じてみたいと思いました。二つ目は、エコ・リサイクル活動を深く学習したいと思ったからです。海外でのエコ・リサイクル活動を学習して、自校の委員会活動に生かしていきたいと思ったからです。また、オーストラリアの音楽を聞いてみたいと思ったことも理由の中にあります。流行っている歌手や楽器の音を聞いて自分の音楽活動に生かしたいと思いました。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

『大仙市から世界にアピールできるエコ・リサイクル活動とは？』

### 2 設定理由

大仙市では数多くのリサイクル活動を行っています。例えばスーパーマーケットではペットボトルや食品トレイ回収を行っています。ここでふと疑問に思ったことが、この活動が他では行われているのかということです。今、何気なく行っている活動が大仙市でしか行っていなかったら、世界にアピールできることだと考え、この研究テーマにしました。

## III 研究テーマについての予想、検証方法、調べた内容、考察

### 1 予想

- (1) オリジナル性があること。 例：キャップ 100g を持ってきたら 1ポイントもらえる。
- (2) 楽しみながら行えること。

### 2 検証方法

- (1) 大仙市内のスーパーマーケットで、どのようなエコ活動を行っているか調べる。
- (2) 現地のスーパーマーケットを見学して工夫点を探す。
- (3) ホストファミリーにどのようなリサイクル活動を行っているのかを聞く。

### 3 調べた内容

#### (1) 大仙市内で行っている活動

ペットボトルの容器とキャップ、食品トレー、ビン、牛乳パック、古紙、空き缶、使用済み食用油の回収など

#### (2) ケアンズで行っている活動

プラスチックや古紙、ビニール袋、パッケージなどのリサイクル活動

#### (3) ホストファミリーが行っている活動

ペットボトル、缶の回収



### 4 考察・まとめ

調べた内容から分かったことは、大仙市で行っているエコ・リサイクル活動の種類の方が多いことです。僕が知っているだけでも大仙市で行っている活動は8つに対して、ケアンズで行っている活動は3つです。

なぜケアンズではあまりリサイクル活動が行われていないのかと疑問に思い、現地で活躍している日本人の方々に質問したところ、2つの回答を得ることができました。

(1) ケアンズでは大仙市ほど細かく分別をしない。

(2) ケアンズの近くにリサイクルセンターがなく、持っていくのに時間がかかり、効率が悪い。

これらから大仙市からアピールできるリサイクル活動はたくさんあるということが分かりました。しかし、ケアンズではリサイクル施設がそれほど充分ではないので、その施設を作る必要があると僕は考えました。



## IV エピソード

### 1 カーテンフィグツリー (curtain fig tree) を見てきました!

カーテンフィグツリー (別名: 絞め殺しの木) …高さ48m, 太さ44m, 樹齢500年の木で「天空の城ラピエタ」のモデルとなった木です。

カーテンフィグツリーは、次のようにしてできます。

(1) イチジクを食べた鳥がフンをする。

(2) フンに含まれていたイチジクの種が木の幹や枝で発芽する。

(3) 根を木に絡ませ絞めながら地上へと根を伸ばしていき、根がどんどん太くなるにつれて、きつく絞めていく。



(4) 木はきつく絞められ、養分を吸い取られることによって枯れて死んでしまい、絞め殺したイチジクが生き残り木の部分は空洞化してしまう。

僕はこの木を見てカッコイイ！と感じました。こういう木を見るのが初めてだったのでとてもワクワクしました。また訪れるときには、この木をゆっくりと見たいと思いました。

## 2 ホストファミリーの家に驚くべき物が！

なんとホストファミリーの家にプールがありました！長さは20～25mくらいで、浅いところだと膝くらいの深さで、深いところだと僕がスッポリ沈んでしまうくらいの深さでした。

オーストラリアは、蒸し暑く気温も高かったので、プールに入るととても気持ちよかったです。疲れた時にプールに入るときもありました。入ってみるとリフレッシュできました。プールに入っているときに「自分の家にもプールが欲しいなあ」と思いました。

## 3 現地で活躍する日本人にインタビューしました！

現地で活躍する日本人にインタビューをしました。今回は四人の方々に自分の研究テーマについて聞いてみました。

一人目は中村有佳さんです。中村さんには時間の都合上、研究テーマについて聞くことができませんでしたが、心掛けていることを聞きました。一つ目は違いを受け入れること、二つ目は笑顔です。笑顔でいれば相手も笑顔になれると、この研修で身に染みて感じました。

二人目はマッカーシー麻紀さんです。研究テーマに対しての答えは、紙のゴミ箱の作り方を教えることです。ここで僕が驚いたことはオーストラリアでも紙のゴミ箱を作っていることです。

三人目は水野那由太さんです。この方は車やバイクのメカニックをしています。この職業ならではのリサイクル活動です。それは、ゴミになる部品を取って置き、パーツを溶接して新たなパーツを作る、というものでした。また、水野さんがおっしゃった言葉が心に響きました。それは「勉強しないように勉強する」です。教科書で真剣に勉強するのではなく、マンガなどの自分の好きなもので勉強して楽しく覚えるということに心が打たれました。

四人目は太田祐さんです。研究テーマに対しての答えは、ペットボトルや缶のリサイクルなどは行っているが日本の方が進んでいるとおっしゃっていました。

今回のインタビューで自分の研究テーマの解決に一步近づくことができました。

## V 海外研修を終えて

今回の研修で学んだことは、『笑顔』です。僕の好きな歌の中に「きっとこの世界の共通言語は英語じゃなくて笑顔だと思う」というフレーズがあります。最初はあまり意味が分かりませんでしたが、この研修を通して『笑顔』という言葉の意味を実感しました。自分の気持ちの伝え方が分からないときもありましたが、身振り手振り笑顔で伝えることができました。これからも笑顔を忘れずに学校生活を過ごしていきたいと思いました。



自然がとても美しいオーストラリア。エコ・リサイクル活動を進めることで、美しい自然をキープしてほしいと思いました。また、いつの日か訪れることが楽しみです。

# オーストラリアレポート

No.18 仙北中学校 佐藤 凌篤

## I はじめに

私がこの研修に応募した理由は二つあります。一つ目は、英語に興味があり、もっと知りたいと思ったからです。中学生になって英語が教科に加わり、初めて日本語以外の言葉について詳しく勉強することになりました。とても興味がわき、面白いと思い、英語についてより深く知りたいと思いました。二つ目は、実際に外国の人と話すことで、英語を話すことや聞くことに慣れたいと思ったからです。今は、周りの人たちが日本語を話しているからこそ、自分は日本語に慣れていますが、もし周りの人たちがみんな英語を話していれば、確実に英語に慣れることができるのでは、と思いました。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

『大仙市を農業でPRするためには？』

### 2 設定理由

私たちが暮らす大仙市では、農業が盛んに行われています。私は、大仙市には、田んぼがたくさんあり、稲作がたくさん行われているのではないかと考えました。しかし、本当に大仙市では、稲作が最も多く行われているのでしょうか。そして、その最も多く作られている作物を、大仙市の顔と言ってもいいほど有名にするためには、どうすればいいのでしょうか。そこで、オーストラリアでのPRのやり方を学び、大仙市でも取り入れることができないかと思い、このテーマを設定しました。

## III 研究テーマについての予想、検証方法、調べた内容、考察

### 1 予想

オーストラリアでは、農業の中でも特に酪農が活発に行われているのでは、と思いました。オーストラリアはとても広く、その広さを生かした酪農をアピールしているのではないかと思います。そのほかにも温かい気候を利用した農作物を育てているのではないかと思います。

### 2 検証方法

次のことについて比較することにしました。

- (1) 育てている農作物や動物の違い
- (2) アピール方法の違い

### 3 調べた内容

- (1) 大仙市で作られている農業の約9割を耕種農業が占めており、その耕種農業の中でも、米が約7割を占めています。
- (2) オーストラリアの国土の約5割が農用地であるが、降水量が少ないため、その約9割が放牧地になっています。オーストラリアの国土は大きく、地域によって、気候が大きく異なります。各地域の気候や灌漑用水へのアクセス等に応じた農業が行われています。

### 4 考察

このことから、大仙市とオーストラリアでは、作っているものの種類が大きく異なることがわかりました。また、それぞれがその地域の気候や環境に合わせて、農業をしていることもわかりました。オーストラリアでは、広大な国土を使った、酪農が行われていますが、僕たちの暮らす大仙市では到底まねできません。しかし、オーストラリアで有名な農業が分かれば、その農業をどのような方法で周りにアピールしているか、そして、どのような農業の特徴やよさをアピールしているのかが分かるのではないかと思います。オーストラリアで、これからの自分に役立つことをたくさん学んできたと思います。

## IV エピソード

### 1 一緒に折り紙！

ホストファミリーと折り紙を折りました。折り紙の代表的なものとして考えた、鶴と一緒に折りました。しかし、初めて折り紙を折るにはレベルが高かったようで、折り紙に難しい印象を与えてしまったと思います。ホストマザーのGladysさんは、「日本の人は、こんなに難しいものを遊びにしているのか。私たちは手が大きいから、難しいな。」と、おっしゃいました。オーストラリアの人に日本の伝統的なものを伝えたかったのに、あまり喜んでもらえなくて残念でした。

もし、またオーストラリアに来ることがあり、何か遊ぶものをプレゼントすることになれば、こまを持っていきたいと思います。

### 2 ファームステイで驚きの体験！！

僕たちがファームステイした家では、酪農を行っていました。実際に仕事に連れて行ってもらうと、人生で初めて、牛や豚、鶏を間近で見ました。間近で見ること、今まで知らなかった動物の意外な部分や、一面を見ることができて、とてもよい経験ができました。特に一番驚いたところは、豚のしっぽが本当に巻かれていたことです。

そして、ファームステイ中に一度だけ、お隣の家の人とモーニングティーを飲みました。最初に



モーニングティーに行くとき聞いたときは、日本にはない文化だったので、少し驚き、そしてわくわくしました。僕は、近所に住んでいる方とお茶会など、日常的なコミュニケーションが少ないので、お隣のひとと、日常的にコミュニケーションがあることが、うらやましく感じました。モーニングティーはおいしく、楽しい時間を過ごすことができました。

### 3 現地で活躍する日本人にインタビューしました！

#### (1) 太田祐さん (バードガイド)

Q. オーストラリアで行われている農業とは何ですか？

A. オーストラリアで作られている有名なものは、マンゴーやサトウキビです。南の方では、牛や羊が育てられており、小麦が作られています。しかし、オーストラリアは広く、あるところは寒いのに、あるところは暑いということがあります。そのため、どこかにいけば何か作っていると思うので、オーストラリアは面白いところですね。

#### (2) 水野那由太さん (メカニック)

Q. オーストラリアの魅力とは何ですか？

A. オーストラリアの魅力は、何と言っても大自然ですね。しかし、この大自然に触れるためには、インドアになってゲームばかりやっていたはいけません。オーストラリアには、外で遊べるものが多く、海や砂漠などへ行って、楽しむことがオーストラリアのよいところです。

#### (3) マッカーシー麻紀さん

Q. 日本とオーストラリアの違いは何ですか？

A. オーストラリアでは、ほとんどが一階建ての平屋で、二階建ての家がほとんどありませんし、ケアンズでは電車の通勤ラッシュもありません。そして一番違うところは、日本では人の表情や動作で気持ちを感じたり、感じられたりしますが、オーストラリアでは言葉にして出さないと気持ちが伝わりません。

#### (4) 中村有佳さん (日本語教師)

Q. オーストラリアの子どもに教えるときに一番気を付けていることは何ですか？

A. オーストラリアの子どもに日本語を教えるときに一番気を付けていることは、オーストラリアの人好みにすることです。オーストラリアの人は、真面目にやることよりも、楽しんでやることを大切にしています。日本語を、曲を使って教えるときに、ポップな曲を使って楽しんで日本語を学べるようにしています。他にも、和太鼓や折り紙を持って行ったときに、和太鼓は完璧さよりも、のりやすさを大切に、折り紙は折って遊ぶのではなく、事前に折っておいたもので遊んでもらうようにしました。

## V 海外研修を終えて

今回の研修で私が学んだことは、研究テーマについてのことと、オーストラリアの人についてです。決めた比較対象である、育てている農作物や動物の違いは、オーストラリアではやはり、酪農をやっているところが多く、車に乗っていると車道に牛が出てくるのがよくありました。そして、サトウキビが育てられているところがありました。どちらの農業も、広大な大地を使って行われており、日本とは明らかに農業の仕方が違うことを改めて感じました。もう一つの比較対象である、アピール方法の違いですが、オーストラリアでは、酪農もよいのですが、そのほかにも、マンゴー、マカダミアナッツ、ジャークスコヒー、サトウキビ、マッドクラブなどの、おいしい食べ物があることを知りました。しかし、この中には、聞いたこともないような食べ物もあり、オーストラリアもあまり、よいところがアピールできていないのではないかと思います。そのため、オーストラリアにはよいところがたくさんあり、そのよいところに気付いていないだけなのではないかと思います。だから、大仙市に普段過ごしていて慣れてしまったからこそ気付かないよいところをほかの県や市の人に見つけてもらうことで、大仙市のよいところがわかり、そのことをアピールすることで、たくさんの人に大仙市のことを知ってもらうことができるのではないかと思います。



カーテンフィグツリー

オーストラリアの人は、楽しむことを大切にしていることが分かりました。ファームステイ中も食事中に、「楽しんでいるかとよく聞かれたので、本当にオーストラリアの人は、その人が楽しんでいるかが大切なのだ」と改めて思いました。オーストラリアの人といると、普段自分が気にしていることが小さく思えて、恥ずかしくなることがありました。



僕と丸太

オーストラリアでの研修を通して、僕は視野が広がり、様々なことに目を向けることができました。オーストラリアでの7日間の出来事を忘れず、今後の自分に生かしていきたいです。

# オーストラリアレポート

No. 19 仙北中学校 進藤 那琉

## I はじめに

僕がこの研修に応募した理由は二つあります。一つ目は、僕は海外に行ったことがなく、海外の文化など、日本とは違った特色に興味があったからです。二つ目は、僕は3歳の頃から英語の塾に通っていて英語が得意で、好きだったからです。日本ではあまり触れる機会のない本当の英語の発音や、今まで知らなかった表現などを学ぶことができると思ったからです。オーストラリアでこのようなことをたくさん学びたいと思い、今回参加を希望することにしました。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

『大仙市の農業を発展させるには？』

### 2 設定理由

僕たちが暮らす大仙市は田畑が多く、さまざまな農作物が収穫されています。しかし、田畑があっても農業を行う働き手は減少してきています。僕の家では祖父母が農家をしています。最近是人手不足のために、自分の田以外の田植えや稲刈りなども行っているという状況です。大仙市には豊かな雪解け水や、よい土地がある一方で、農家の数が減ってしまうことで農作物を育てることができない、ということがとても残念だと感じます。そこで、大仙市の農業を今後、発展させる上で何かヒントになることがあるのではないかと思います、このテーマを設定しました。

## III 研究テーマについての予想、検証方法、調べた内容、考察

### 1 予想

オーストラリアは日本の約20倍の面積があります。砂漠地帯も含まれるため、もちろんそこでは農業はできませんが、それ以外の土地を利用して大規模な農業をしていると思います。また、とても暑いので、サトウキビやパイナップルを生産していると思います。

### 2 検証方法

次のことについて比較することにしました。

- ・栽培する農作物や、栽培方法の違い

### 3 調べた内容

- (1) 大仙市の農業は、主に稲を栽培しています。豊富な雪解け水や、豊かな土壌、平野を利用して栽培しています。また、さまざまな野菜や花なども栽培しています。しかし、人口の減少や、高齢化によって農家の数は年々減ってきているようです。
- (2) オーストラリアの農業は、お茶、とうもろこし、小麦、ピーナッツ、パイナップルの他にもたくさんの農作物を栽培していました。農園は広く、大型の機械を使って大量に生産をしていました。農園の近くには工場があり、すぐに運べるようになっていました。

### 4 考察

日本では最近、パンやパスタを食べる人が多くなってきています。オーストラリアでは、その原料となる小麦を多く生産していました。大仙市では小麦を作ることはなかなか難しいようですが、僕が注目したことは、「農業を行うための機械をどうするか」ということです。大仙市でも機械を使った農業は行われていますが、農地面積の割には機械の値段が高く、簡単には買うことができないそうです。オーストラリアのように広大な農地面積がある場合は機械のコストは低くなるのかもしれませんが、そうでない場合は個人で買うことはかなり大変だと祖父母から聞きました。そのため、農業をやめてしまう理由の一つが「農業用機械の値段が高い」ことが挙げられるようです。農家をやめてしまう人を減らし、大仙市の農業の活性化を図るために、各自治体や地域で協力して農業用機械を共同で購入して使ったり、購入のために補助を行ったりするなどの手立てが必要だと考えました。そうすることが、大仙市の農業の発展につながるのではないかと思います。

## IV エピソード

### 1 ホームステイでの生活！！

#### 1 日目

僕たちはホストファミリーと一緒に昼ご飯を食べました。お昼ご飯は、ミートパイやハッシュドポテトなど、日本ではなかなか食べられないような料理でした。量が多くて食べきれない…なんてことはなく、とてもおいしくいただくことができ、完食しました。

昼食後ホストファザーの John さんに「君たちはオーストラリアに来て疲れているだろうから、昼寝をなさい」と言われ、僕たちは昼寝をすることにしました。John さんに昼寝をなさいと言われたとき、僕たちを気遣ってくれる、なんて優しい方なんだ！と感動しました。



カーテンフィグツリー

昼寝をした後、僕たちは John さんと一緒にプールに入りました。僕は中学校に進学してからプー

ルに入っていなかったなので、約2年ぶりのプールでした。プールはとても深く、久しぶりにはしゃいだり、のんびりしたりすることができたので、とても気持ちがよかったです。

夕食後、僕たちは John さんと Dianna さんと一緒に UNO をしました。このお宅ではシャワーの順番を UNO の順位で決めるそうです。とても面白いシステムだと思いました。ホストファミリーと楽しく交流ができてうれしかったです。

どうやら僕たちはとても疲れていたようで、夕食の時にはもう眠かったので、みんなで早く寝ました。

## 2日目

僕たちは、ホストファミリーとお孫さんと一緒に、ダムへピクニックをしに行き、そこで昼食をとりました。右の写真のように、とても美しい景色を楽しむことができました。

帰宅後、お孫さんと一緒にプールに入りました。みんなでレースをしたり、発泡スチロールや水鉄砲を使って遊んだりしました。お孫さんは日本のゲームやアニメが好きだそうで、オーストラリアで日本の文化が広まっていることをうれしく感じました。



ピクニックで行ったダム

## 3日目

僕たちはホストファミリーに稲庭うどんを作りました。初めてでしたが、うまく作ることができました。ホストファミリーが「おいしい」と言って食べてくれたことが、何よりうれしかったです。今日はホームステイ最後の日ということで、ホストファミリーにお土産として、箸、箸置き、扇子やお菓子などをプレゼントしました。ホストファミリーはとてもいいねと喜んでくれました。そして、僕たちはホストファミリーからお返しに UNO やオーストラリアのことが書かれたパンフレットをもらいました。

ホームステイをしてみてとてもいい体験になりました。オーストラリアの方の優しさにも触れることができ、うれしかったです。

## 2 現地で活躍する日本人にインタビューしました！

### ◎中村有佳さん

(ケアンズで日本語の教師をしながら、イベントなどを通して日本の伝統文化を教えています。)

日本語を教えるときは、語順の違いや、文化が結びついている言葉を教えることが難しいそうです。元々は動物の勉強をしていたそうですが、日本人であることを生かしたいと考えて、この仕事を始めたそうです。日本では、「いいえ」と言うことはあまりよいイメージではありませんが、英語を話すときには、はっきりと自分の意思を伝えることが重要であると教えていただきました。

### ◎マッカーシー麻紀さん

(東日本大震災後、毎年寄付金集めをしています。)

子どもたちに自然を感じてもらいたいと思い、寄付金集めを始めたそうです。オーストラリア

では、寄付は日常的なもので、子どもから大人まで、いろいろな人が寄付してくれるそうです。

◎太田祐さん

(オーストラリアやその他の国の探鳥地を知り尽くしたオーストラリアでも有数のバードガイドです。)

日本は南北に長いですが、オーストラリアは東西に広いので、いろいろな気候のパターンがあるそうです。英語はよく聞くようにしていたし、勉強にもしっかり取り組んでいたそうです。

◎水野那由太さん

(日本でプロのバイクのレーシングライダーをしていた方で、今はバイクのメカニックとして働きながらバイクレースに出場しています。)

ケアンズのバイクレースは日本よりさびれていて、人が集まらず寂しいそうです。勉強や努力はあまり好きではなかったのが、英語の漫画を読むことで英語を覚えるようにしたそうです。オーストラリアの方々は温かく、おおらかな人が多いそうです。また、盆踊りやお祭りに興味があって、日本のことが好きだそうです。

### 3 オージーキッズとの交流

僕たちは現地の学生のオージーキッズと一緒に昼ご飯を食べたり、体を動かしたりして、交流をしました。オージーキッズは僕たちよりも元気でした。夜にはオージーキッズと一緒にダンスをしたり二人羽織をしました。みんな楽しんでくれたようで、うれしかったです。

## V 海外研修を終えて

今回の研修で僕が学んだことは、ある程度英語が話せれば、例え完璧な英語でなくても自分の言いたいことを伝えることができるということです。単語がわからないというときでも、ジェスチャーを使って伝えることができました。オーストラリアで出会った方々はとても優しく、おおらかな生活を送っていて、とても楽しそうでした。おかげで、僕もゆっくりと生活することができ、とても快適な滞在になりました。僕は、いつも全てを完璧にしなければならないと考えて生活してきましたが、今回の研修で、たまにはゆっくりすることも必要だなと学ぶことができました。研修に参加し、外国のさまざまな文化について学ぶことができました。将来、働いてお金がたまったら、もう一度行ってみたいのです。



# オーストラリアレポート

No. 20 仙北中学校 鈴木帆乃華

## I はじめに

私がこの研修に応募した理由は三つあります。一つ目は、英語や外国の文化に興味があり、もっと知りたいと思ったからです。二つ目は、私は将来、小学校教諭になりたいと思っているからです。私は、教師になったら今回の経験を話し、英語の楽しさを伝えることで子どもたちに興味をもってほしいと思っています。三つ目は、英語は消極的だった性格を変え、自分の気持ちを表せるようにしてくれるものだからです。そんな英語についてより深く知るため、また将来の夢に少しでも近づけることができるよう、この研修に応募しました。

## II 研究テーマと設定理由

### 1 研究テーマ

『大仙市の自然を生かし、観光客を増やすにはどうすべきか？』

### 2 設定理由

私たちが暮らす大仙市には、旧池田氏庭園や払田の柵、雄物川、白糸の滝などたくさんの自然や歴史的な建物があります。素晴らしい観光スポットがあるなか、大仙市には観光客が少ないという課題があります。とても美しく、魅力的なスポットがあるのにそのよさを世界中の方々が知らないのは残念なことですし、未来に伝統を受け継ぐためにも観光客を増やすことが大切だと思います、この研究テーマを設定しました。

## III 研究テーマについての予想、検証方法、調べた内容、考察

### 1 予想

オーストラリアには、たくさんの宿泊施設があつて、日本人だけでなく様々な国の人が職員として働いているのではないかと思います。外国に行っても自分の国の言葉で会話できると、とても安心します。観光地にはとても分かりやすい看板などがあり、観光客を第一に考えた取組がされているのではないかと思います。また、どんな人でも楽しめるイベントの開催など、観光客を増やす工夫があるのではないかと思います。

### 2 検証方法

次のことについて比較することにしました。

- (1) 宿泊施設やお店の違い
- (2) イベントについて

### 3 調べた内容

- (1) 大仙市の宿泊施設は数多くなく、観光地の近くにはあまりありません。そういった場合、大仙市の魅力でもある歴史的な建物を観光しても宿泊する場所がなければ困ります。宿泊施設があるということは、食事ができるということでもあり、観光客としてはとても快適に旅行ができます。また、大仙市にはお土産を買えるお店があまりありません。つまり、英語を話して大仙市を案内したり魅力を伝えたりする人がそもそもいないこととなります。地域的なイベントはたくさんありますが、そのイベントが広まらずに終わってしまっている点も改善していかなければならないと思いました。
- (2) オーストラリアには観光地のすぐ近くに宿泊施設があり、徒歩で移動できるほどまわりにはお店がたくさんありました。宿泊施設が多だけでなく、レストランも多いと感じました。特に驚いたことは、お土産を販売しているお店が多かったことです。外国を訪れる人にとってお土産があるとすごくうれしいと思います。オーストラリアには文化を感じられるイベントがありました。先住民族のアボリジニのダンスショーやディジュリドゥという楽器を吹くことのできるイベントなどがありました。

### 4 考察

オーストラリアでは、大仙市にはない、観光地としての工夫を見つけました。ケアンズにある「OK GIFT SHOP」というお土産店さんは店員さんが全員日本語を話せるお店でした。他のお店にも日本語を話せる店員さんがいました。日本人がいるだけでとても安心しました。私たちがそう思うのと同じように、外国の方が日本に来たとき、自分の国の言語が伝わると安心すると思います。観光地やいろいろなお店において外国語による対応があれば、外国からも大仙市に人を呼び込めると感じました。

大仙市には歴史的建物や自然があり、歴史を見て感じることはできますが、実際に文化体験ができる場は多くありません。また、オーストラリアには、コアラやカンガルーなどの有名な動物がいるため、動物と触れ合う場がありました。大仙市には珍しい動物がいるというわけではありませんが、動物に限らず大仙市にしかないものを探していきたいです。そのためには、大仙市を見つめ直し、大仙市をアピールできることを見つけることが大切だと思いました。

## IV エピソード

### 1 折り紙をプレゼント！

私は、他の派遣生2人とホストマザーのTaniaさんの家にホームステイしました。ホームステイ最終日の夜に私たちはホストファミリーにプレゼントするための折り紙を折りました。折り紙の種類はカラフルな鶴とメッセージつきのかぶとなど、たくさん折ってプレゼントしました。初めは、ホストファミリーと一緒に折り紙を楽しむつもりでしたが、うまく英語を伝えられず、時間もかかってしまったのでいくつか折ってプレゼントする方に変更しました。一緒にできなかつ

たのは残念でしたが、折り紙を渡したときとても喜んでくれたので私たちもすごく嬉しい気持ちになりました。最後には、みんなでハグをしてお別れしました。3日間もお世話になったホストファミリーとのお別れはとても悲しいことでしたが、笑顔で手を振ってくれたときは、また来たいと感じました。

## 2 ファームステイで驚きのふれあい体験！！

ホームステイ先には数百頭の牛やヤギがいました。私がそれを見たとき初めに思ったことはとても多い数なのに放したとき全て帰ってくるのかでした。しかし、Taniaさんが「Come on!」と叫ぶと一斉に帰ってきました。とても驚きました。

また、牛にえさをあげたときに驚いたことがあります。牛のえさは食パンで、私たちが朝食などでいただいた食パンと同じものでした。直接えさをあげたので、距離がとても近くて初めはとても怖かったけど、慣れるとすごく楽しかったです。



ホストファミリーが飼っている牛

えさをあげてみて、牛の舌は黒くてとても長いことがわかりました。初めての体験ばかりで、少し怖い部分もありましたが、それ以上にとっても楽しい経験になりました。

## 3 現地で活躍する日本人にインタビューしました！

### (1) 中村さん（日本語教師）

Q. 夢を叶えるために努力したことは何ですか。

A. 英語の勉強です。英語がわからないと海外では働けません。中学、高校で学んだことが活かされています。

### (2) マッカーシーさん

Q. オーストラリアの観光地が愛される理由は何ですか。

A. 土地が広く、スケールがダイナミックなところです。大きくのびのびしていて、人も小さなことが気にならないおおらかな人が多いです。

### (3) 水野さん（メカニック）

Q. なぜ、オーストラリアに住もうと思ったのですか。

A. 中学3年生のときにアイルランドに行き、外国は面白いと感じました。日本でバイクレーサーになりましたが、別のことをしてみたいと思い、オーストラリアに住むことにしました。

### (4) 太田さん（バードガイド）

Q. 仕事をしていて気をつけていることはありますか。

A. 動物を見つけるのが仕事ですが、何度も珍しい動物を見ているので慣れてしまい、ときどき見過ごしてしまうことがあります。私にとっては見慣れていても、他の人にとっては珍しい動物なので、そのことを忘れないよう、意識するようにしています。

## 4 オーストラリアの文化を体験！

レインフォレストेशन・ネイチャー・パークでオーストラリアの先住民族であるアボリジニのダンスショーを見たり、ブーメラン投げを体験したり、シロアリが食べて空洞になった木でできた楽器「ディジュリドゥ」の音色を楽しんだりしました。

アボリジニのダンスは、ただ踊っているだけではなく、1つ1つに意味があるものでした。例えば、ある部族が他の部族の領域に侵入しそうなときに、部族間の争いを防ぐため、近寄ってこないようにする「警告のダンス」というものがあります。このような意味に注目して聞いてみると、その雰囲気を感じることができる部分がありました。

また、派遣生からも2人、ダンスに参加しました。大仙市には、実際に文化体験ができるイベントはあまり多くないような気がします。ただ見るだけでなく、実際に触ったり、参加したりすることができる、より楽しくその文化や歴史を感じてもらえると思いました。



先住民族のアボリジニ

## V 海外研修を終えて

オーストラリアでは、大仙市をよりよくするための方法をたくさん学びました。また、ホームステイでは、オーストラリアの国民性についても学び、日本との違いをいくつも見つけることができました。オーストラリアの人はとてもおおらかで、笑顔が絶えません。そして、違いを受け入れ、その人に合わせるができる人がたくさんいました。日本人から見るとリアクションが大きく、どんな小さなことにでも反応してくれるので、話をしていてとても楽しかったです。外国の方はよく、ありがとう、「Thank you!」と言ってくれました。その言葉を聞くだけで温かい気持ちになり、

反応は会話をする上でとても大事なことだと感じました。

この研修を通して私は、大仙市の風景などを意識して見るようになりました。そのおかげで大仙市のよさや、さらによくできることなどを、より深く知ることができました。また、外国文化と日本文化の違いを楽しく学ぶことができ、物事を幅広く考えられるようになった気がします。これからの私の将来につながる素晴らしい体験ができた9日間でした。



ホームステイの様子



大仙市教育委員会  
Daisen City Board of Education